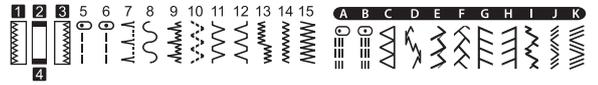


家庭用ミシン 取扱説明書

型式：SP20



取扱説明DVDも
あわせてご覧ください。



- ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 取扱説明書は、お読みになった後もいつでも取り出せる場所に大切に保管してください。
- 他の方にお譲りになる場合は、この取扱説明書もいっしょにお渡しください。

このミシンの機能について

8
ページ

- 各部の使いかたを覚えましょう
- ぬい模様の種類

ミシンに糸をセットする

22
ページ

- 下糸をポビンに巻きましょう
- 下糸・上糸をかけましょう
- 糸通し器を使ってみましょう

ぬってみましょう

34
ページ

- 基本編の直線ぬい・返しぬい
- 応用編のジグザクぬい・ボタンホールぬいなど

よくある質問

45
ページ

- 厚い布地をぬう
- 薄い布地をぬう
- 糸がつまっている・たるんでいる
- 布がミシンから取れなくなった

困ったときには

50
ページ

目次

1 付属品の確認をしましょう

付属品	4
別売品のご案内	5

2 安全上のご注意

ご使用前に必ずお読みください	6
----------------	---

3 このミシンの機能について

各部のなまえ	8
各部の使いかたを覚えましょう	10
ぬい模様の種類	12
ワンポイントナビについて	14
フットコントローラー（別売品）の使いかた	15

4 ぬう前の基礎知識

針と糸と布地の関係と糸調子の合わせかた	16
正しい針の見分けかた	17

5 ぬう前のミシンの準備

電源のつなぎかた	18
針の取り替えかた	19
押えの取り替えかた	20

6 ミシンに糸をセットする

下糸をボビンに巻きましょう	22
下糸をセットしましょう	24
上糸をかけましょう（かけかたの流れ）	26
糸通し器を使ってみましょう	28
下糸を引き上げましょう	30
正しく糸かけできているか確認しましょう	31
上糸をかけましょう（かけかたのポイント）	32

はじめてのご使用になる場合は、①～⑥を必ず読んでください。

7 ぬってみましょう

基本編	34
● 直線ぬい	34
● 糸切り	35
● 返しぬい	35
応用編	36
● シグザグぬい	36
● 裁ち目かがりぬい	37
● まつりぬい	38
● ファスナー付け	40
● ボタンホールぬい	42

8 よくある質問

厚い布地・薄い布地をぬいたい	45
筒物の布地をぬいたい	46
糸がつっている たるんでいる	47
布がミシンから取れなくなった	48

9 困ったときには

ミシンの調子が悪いとき	50
-------------	----

10 ミシンのお手入れと保管

送り歯とかまのお手入れ	52
電球交換のしかた	56
保管方法とお願い	58

11 保証とアフターサービス

保証とアフターサービス	59
仕様・お問い合わせ先	裏表紙

1

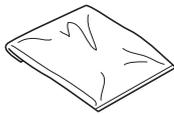
付属品の確認をしましょう

付属品

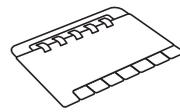
箱をあけたら、以下の付属品が揃っているか確認してください。

● 梱包箱に入っている付属品

ソフトカバー (× 1)



ワンポイントナビ (× 1)
(本体に収納されています)

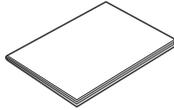


電源コード (× 1)

※電源コードはこの製品以外には使用しないでください。



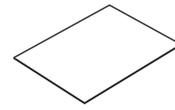
取扱説明書 (× 1)



取扱説明 DVD (× 1)

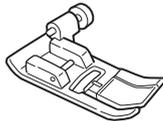


保証書 (× 1)

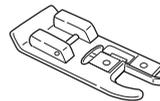


● 補助テーブルに入っている付属品

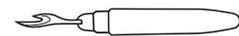
ジグザグ押え (× 1)
(本体にセットされています)



裁ち目かがり押え (× 1)



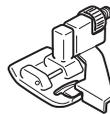
リッパー (× 1)



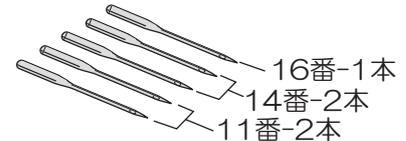
ファスナー押え (× 1)



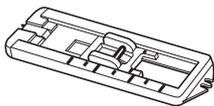
まつりぬい押え (× 1)



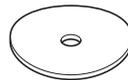
針



ボタンホール押え (× 1)



フェルト (× 1)
(本体にセットされています)



針板ドライバー (× 1)



樹脂ボビン (× 5)
(1個は本体にセットされています)

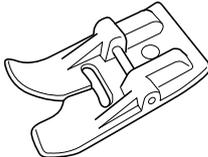
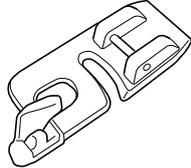
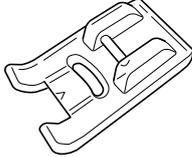
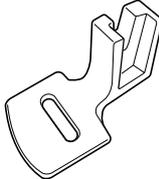
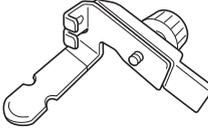
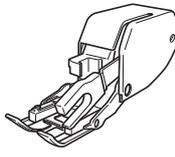
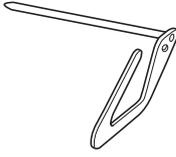
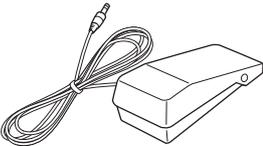


(お願い)
必ず本機専用のボビンをご使用ください。



別売品のご案内

ミシンをより広く活用していただくために、種々の別売品をご用意しております。

<p>直線用押え</p> <p>直線ぬい専用の押えです。 薄地をぬうときに便利です。</p> 	<p>スムーズ押え</p> <p>レザーやビニールなどのすべりが悪い素材をぬうときに使うと、布送りがスムーズです。</p> 
<p>三つ巻き押え</p> <p>布端を三つ巻きぬいします。ハンカチやスカーフなどの端をぬうときに使います。</p> 	<p>透明押え</p> <p>押えが透明なので、ぬい目が見やすく、下絵やぬい線を描いたところをぬうのに便利です。</p> 
<p>ギャザー押え</p> <p>簡単なフリルやレースのギャザーよせができます。</p> 	<p>パイピング押え</p> <p>片押えなので、パイピングテープを付けるのに便利です。</p> 
<p>上送り押え</p> <p>布を上側から送るので、ぬいズレを起こしやすいキルト素材や伸縮素材にも適しています。</p> 	<p>キルティングガイド</p> <p>キルティングをするとき、等間隔でぬうのに便利です。</p> 
<p>フットコントローラー</p> <p>ぬう速度を足元でコントロールできます。両手が自由に使えるので作業がしやすいです。</p>  <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注意</p> <p>指定以外のコントローラー（機器）は接続しないでください。コードを延長して使用しないでください。</p> </div>	

別売品の購入方法

当社のホームページからご購入いただけます。(http://www.egatama.jp)

パソコンをお持ちでない方は、以下弊社窓口へお問い合わせください。

アイシン精機株式会社 お客様相談室 0120-24-8640 (フリーダイヤル)

受付時間：8:30～17:30

(土日・年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休暇は除く)

2

安全上のご注意

⚠ 注意



修理、分解、改造はしない。

感電・火災や異常作動によるケガの原因になります。

ご使用前に必ずお読みください

誤った取り扱いをしたときに生じる危害や損害を未然に防ぐための、安全上の注意事項です。よくお読みのうえ必ずお守りください。

「⚠警告」「⚠注意」の意味



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の意味



触れる行為の禁止



してはいけない行為



必ず行っていただくこと



電源プラグをコンセントから抜く



警告



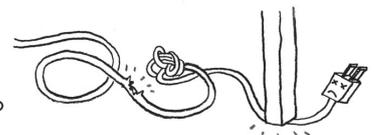
電源は交流 100V で使用する。
感電・火災の原因になります。



電源コードを傷つけたり、
加工したり、無理に曲げたり、
引っ張ったり、ねじったりしない。

感電・火災の原因になります。

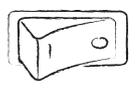
もし電源コードが損傷したときは本モデル専用コードをお求めください。



⚠ 注意

! すべり板は閉じて使用する。
ケガの原因になります。

! 針交換や上糸・下糸をかけるときは電源スイッチを「切」にする。
ケガの原因になります。



! ミシンを操作中は、針から目を離さない。
ケガの原因になります。



⊘ 針、プーリーなど動いている部分に触れない。
ケガの原因になります。



⊘ 針の下に指を入れない。
ケガの原因になります。



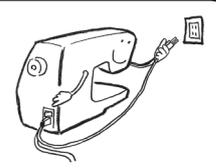
! お子様のご使用になるときは、保護者の指導のもとに使用する。
ケガの原因になります。



⊘ 小さなお子様の近くでは使用しない。
針などに触れてケガをする原因になります。



⊘ ミシンの使用後、ミシンから離れるときは、電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜く。
ケガの原因になります。



! ミシンを使用する前に押えホルダー締めネジ・針止めネジがしっかり締まっていることを確認する。
ケガの原因になります。

⊘ 次のような行為をしない。
ケガの原因になります。

- 押えを下げずにぬう。
- 針の取りつけが間違っただまぬう。
- 曲がった針を使用する。
- 布を引っ張ってぬう。
- 縫製中に模様選択ダイヤルを動かす。

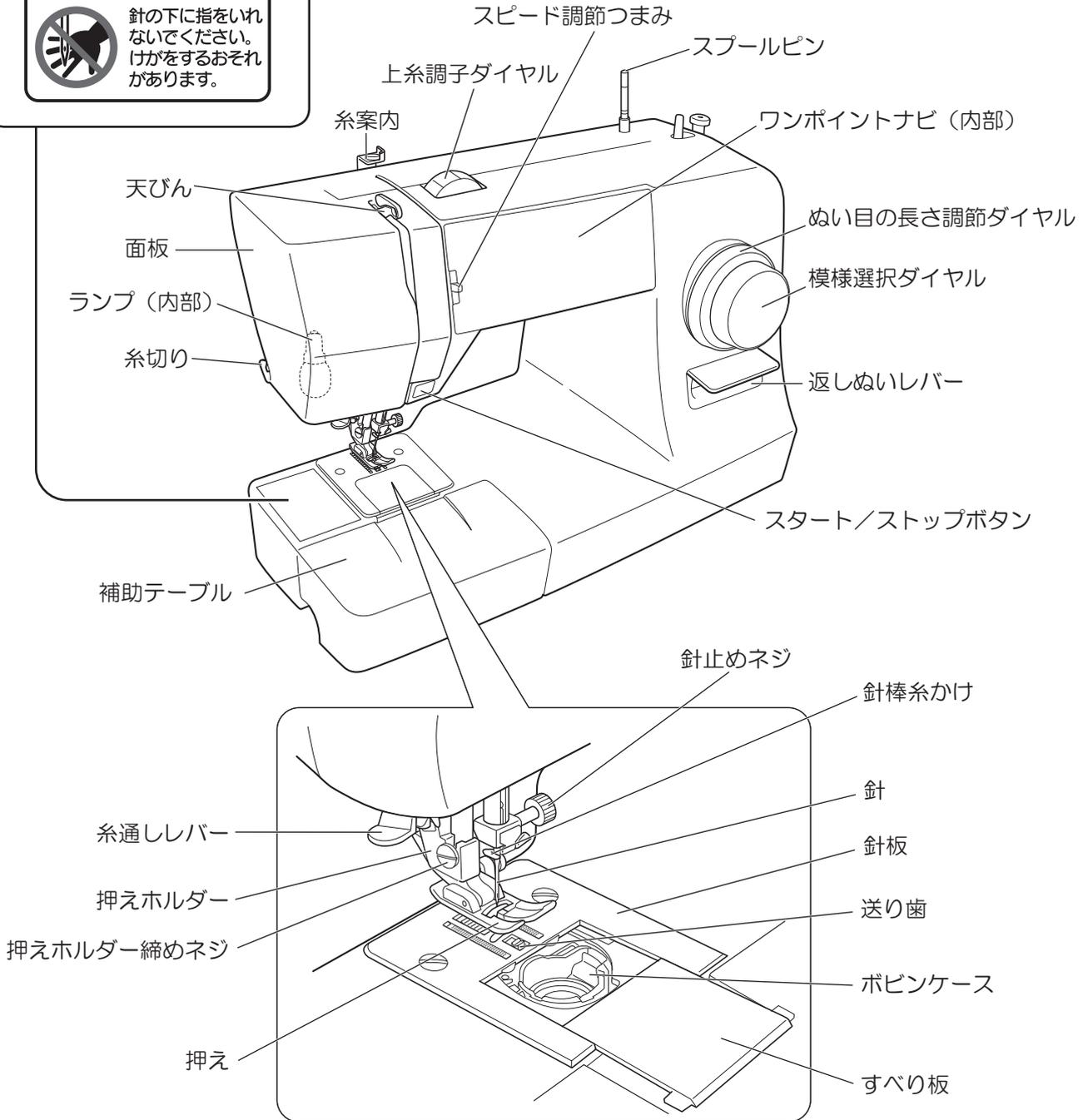
! 修理、分解、改造はしない。
感電・火災や異常作動によるケガの原因になります。

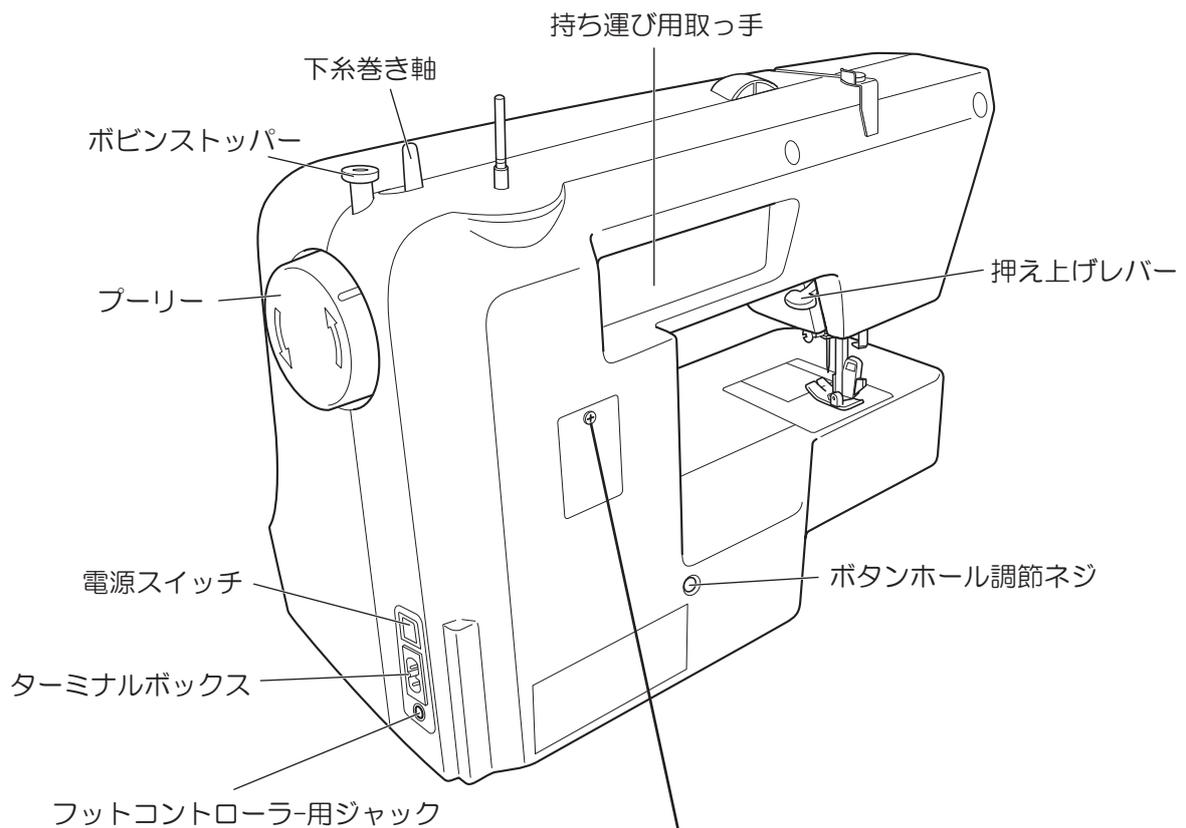
3

このミシンの機能について

各部のなまえ

警告表示ラベル





修理・アフターサービス用ネジ

このネジは、修理・アフターサービスの際にのみ使用します。
開けないでください。

⚠ 注意

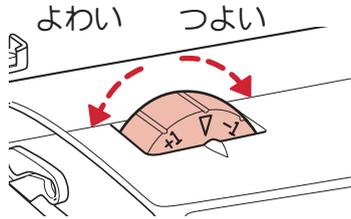


修理、分解、改造はしない。
感電・火災や異常作動によるケガの原因になります。

各部の使いかたを覚えましょう

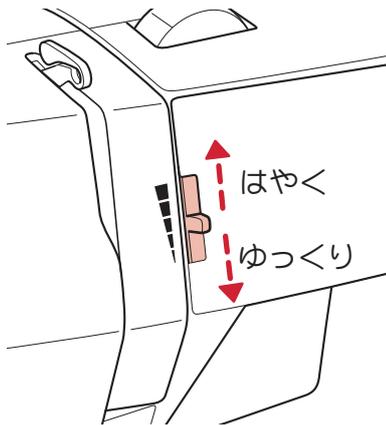
ミシン本体をみながら、各部の使いかたを覚えましょう。

上糸調子ダイヤル



- 上糸の調子を強くしたり弱く調整することができます。

スピード調節つまみ

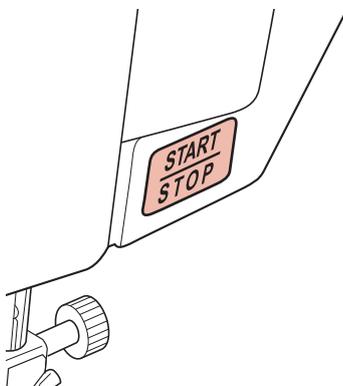


- めうスピードを調節できます。

速くめうときはつまみを上に上げます。

ゆっくりめうときはつまみを下に下げます。

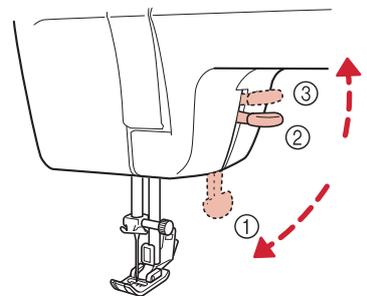
スタート/ストップボタン

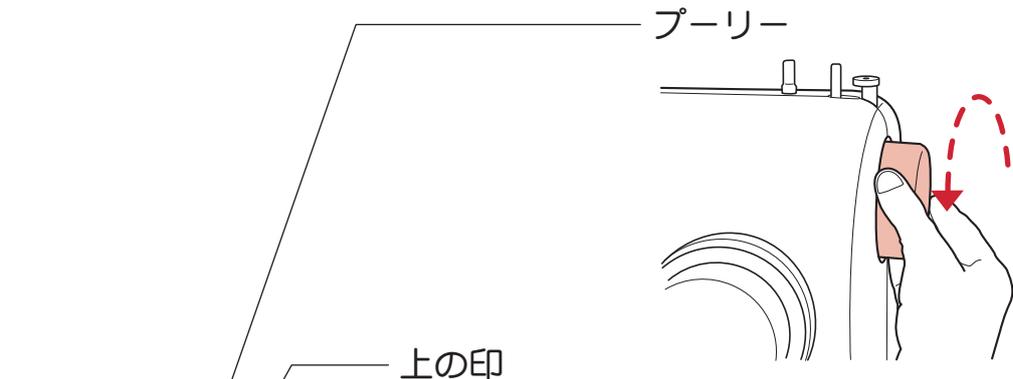


スタート/ストップボタンを押すとミシンが動きます。

もう一度押すとミシンは止まります。

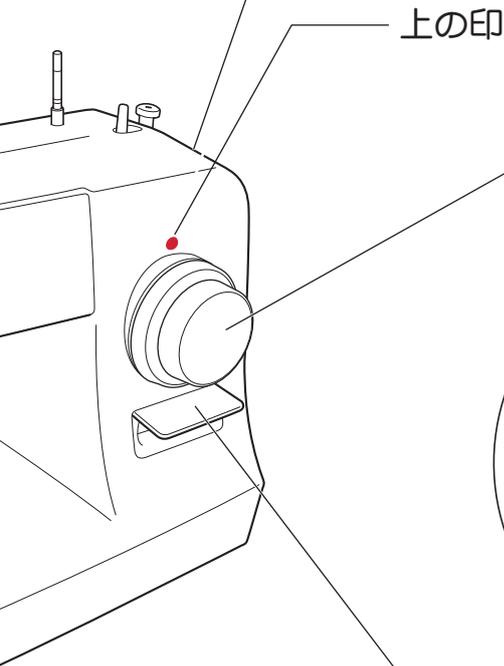
押え上げレバー





・ 針を手動で上下させることができます。

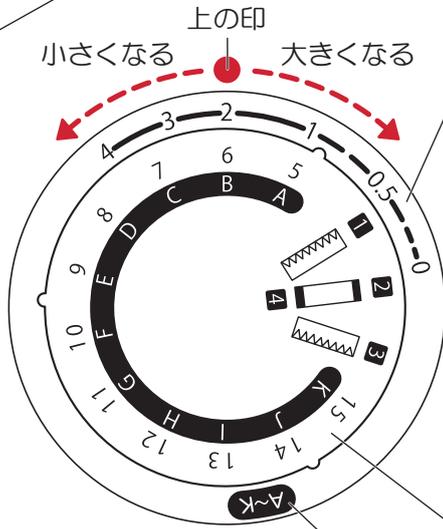
(お願い)
プーリーは必ず手前(矢印の方向)に回してください。
反対側に回すと糸がからむ原因になります。



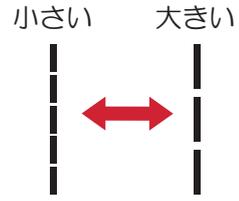
上の印

**模様選択ダイヤルと
ぬい目の長さ調節ダイヤル**

詳しい使いかたは
12～13ページ



■ぬい目の長さ調節ダイヤル
ダイヤルを回して、ぬい目の長さを調節します。
大きい数字を上印に合わせれば、ぬい目の長さは大きくなり、小さい数字を上印に合わせれば、ぬい目の長さは小さくなります。

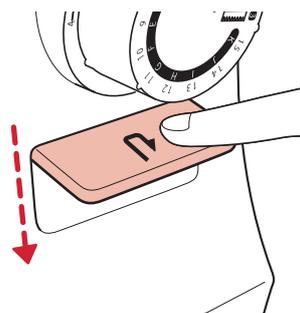


■模様選択ダイヤル
ダイヤルを回して、ぬいたい模様を上印に合わせます。

AからKの模様をぬうときはダイヤル **A~K** を上印に合わせます。

- ・ ぬうときは押え上げレバーを下げ、押えを下げる。(①)
- ・ 布をセットするときは押え上げレバーを上げ、押えを上げる。(②)
- ・ 押え上げレバーを(③)の位置に上げると押えは更に上がります。この位置では止まりませんので手で持ったまま布地を入れてください。厚い布地を入れるとき便利です。

返しぬいレバー



・ 返しぬいレバーを下げている間、低速で返しぬいをします。

スタート/ストップボタンを押さなくてもレバーを下げるだけでスタートします。

ぬい模様の種類

⚠ 注意

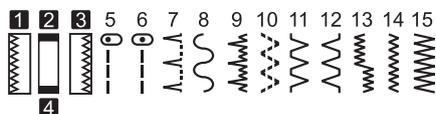


模様選択ダイヤルを回すときは電源スイッチを「切」にする。
ケガの原因になります。

ぬい模様・ぬい目の長さを調節するときのご注意

プリーを手前に回し、針を一番上に上げてください。模様、ぬい目の長さがうまくセットされない場合があります。

■ 1～15の模様をぬうとき

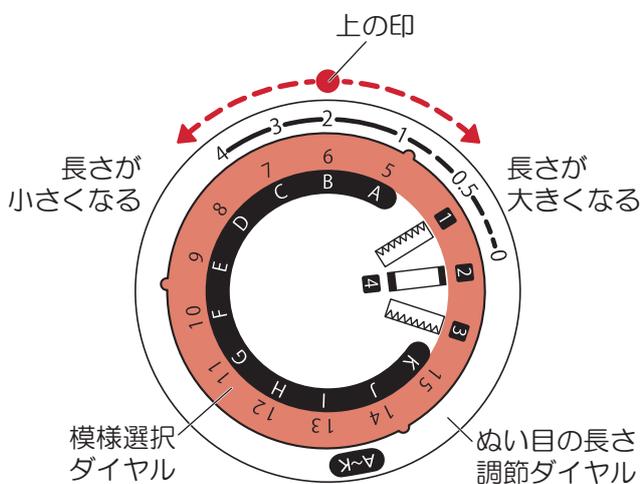


1 お好みの模様をダイヤルの上の印に合わせる。

2 ぬい目の長さ調節ダイヤルを回し、長さを上の印に合わせる。

※ ぬい目の長さは、0～4の間で調節することができます。

ぬい模様によっておすすめする範囲が異なりますので、下の表でご確認ください。



番号	主な用途	ぬい目の長さ	押え
1 2 3 4	ボタンホールぬい	0.5～1	ボタンホール押え
5	薄地の直線ぬい (左側)	1～4	ジグザグ押え
6	直線ぬい (中央)	1～4	
7	まつりぬい	1～2	まつりぬい押え
8	飾りぬい うねり模様	1～4	ジグザグ押え
9	伸縮地のまつりぬい	1～2	まつりぬい押え

番号	主な用途	ぬい目の長さ	押え
10	つくりぬい 薄地の裁ち目 かがりぬい	1～2	ジグザグ押え
11	飾りぬい	1～2	
12	飾りぬい	1～2	
13	飾りぬい	1～2	
14	ジグザグぬい アップリケ	1～4	
15	ジグザグぬい アップリケ	1～4	裁ち目かがり押え
	裁ち目 かがりぬい	1～4	

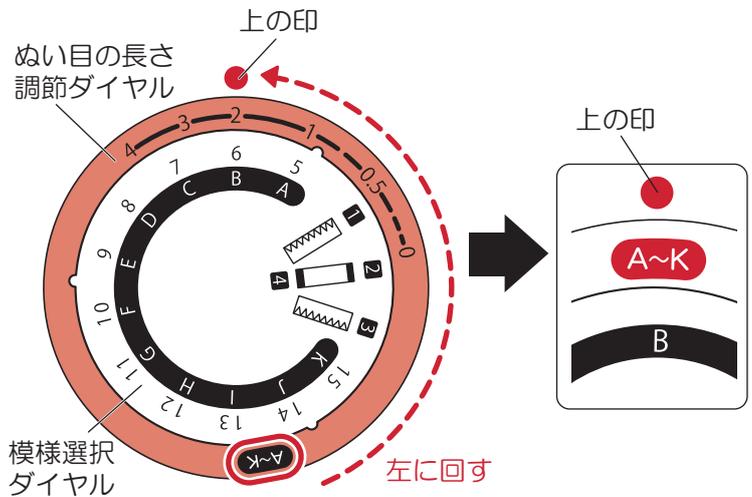
⚠ 注意

針をおろしたまま模様選択ダイヤルを回さない。
針が折れ、ケガの原因になります。

■ A～Kの模様をぬうとき



- 1 お好みの模様をダイヤルの上の印に合わせる。
 - 2 めい目の長さ調節ダイヤルを回し、**A~K**を上印に合わせる。
- ※ めい目の長さは3mmに固定されるので調節はできません。



番号	主な用途	めい目の長さ	押え
A	直線強化 ぬい (左側)	A~K	ジグザグ押え
B	直線強化 ぬい (中央)		
C	飾りぬい		
D	飾りぬい		
E	飾りぬい		
F	飾りぬい ファゴティング		

番号	主な用途	めい目の長さ	押え
G	飾りぬい	A~K	ジグザグ押え
H	飾りぬい		
I	飾りぬい		
J	飾りぬい ジグザグ 強化ぬい (中)		
K	飾りぬい ジグザグ 強化ぬい (大)		

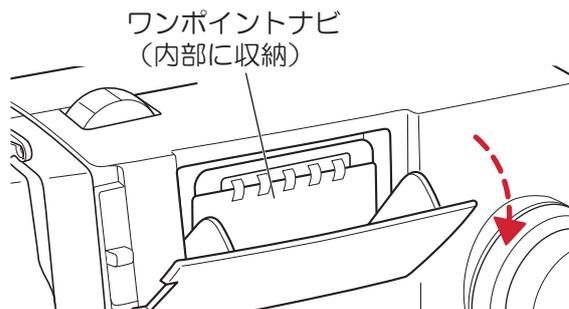
ワンポイントナビについて

ミシンの基本的な操作などの説明をしているワンポイントナビが本体のふたの内側に入っています。

■ ワンポイントナビの取り出しかた

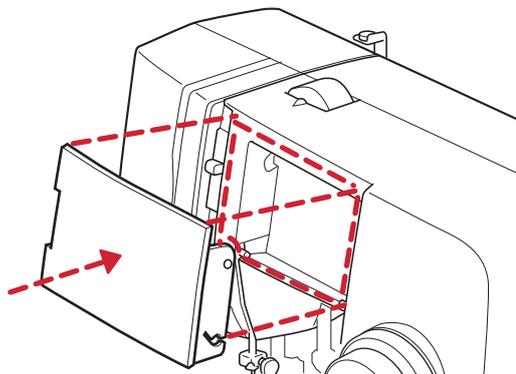
ふたの上部を手前に引いてふたを開ける。

(お願い)
下方に強く引かないでください。
※ふたが破損することがあります。



■ ふたのとり付けかた

ふたが本体からはずれた場合は、
ふたと本体のかたちを合わせて
まっすぐにはめてください。



フットコントローラー（別売品）の使いかた

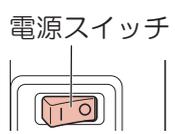
⚠ 注意

! フットコントローラーは、必ず電源スイッチを「切」にしてから接続する。ケガの原因になります。

※フットコントローラーを使用しているときは、スタート/ストップボタンは操作できません。

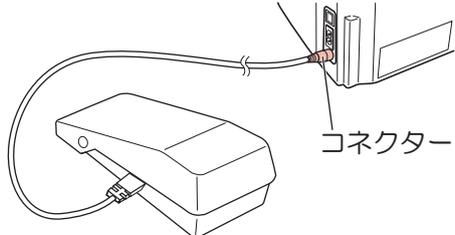
■ 使いかた

1 ミシンの電源スイッチの「O」側を押し、電源を切る。



電源スイッチ

2 フットコントローラーコードのコンネクターをミシンのジャックに差し込む。



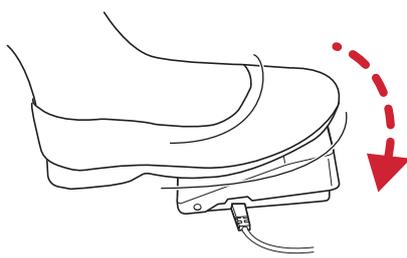
コンネクター

3 ミシンの電源スイッチの「I」側を押し、電源を入れる。



電源スイッチ

4 フットコントローラーを踏むとミシンが動きます。フットコントローラーを踏み込んでいくと、ミシンは速く回転します。フットコントローラーから足をはなすとミシンは止まります。
※スピード調節つまみで、フットコントローラーを最も踏み込んだときの最高速度を調節できます。



注意

指定以外のコントローラー（機器）は接続しないでください。
コードを延長して使用しないでください。

4

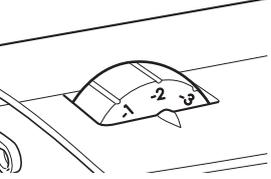
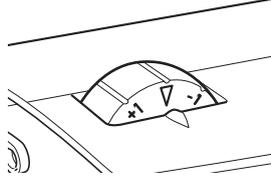
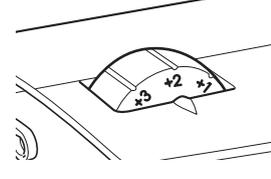
ぬう前の基礎知識

針と糸と布地の関係と糸調子の合わせかた

布地の種類によって、布に合った針と糸に取り替えてぬうのがうまく仕上げるポイントです。それぞれの組み合わせは、下の表を参照ください。

上糸調子ダイヤルは、通常「▽」に合わせてぬいます。

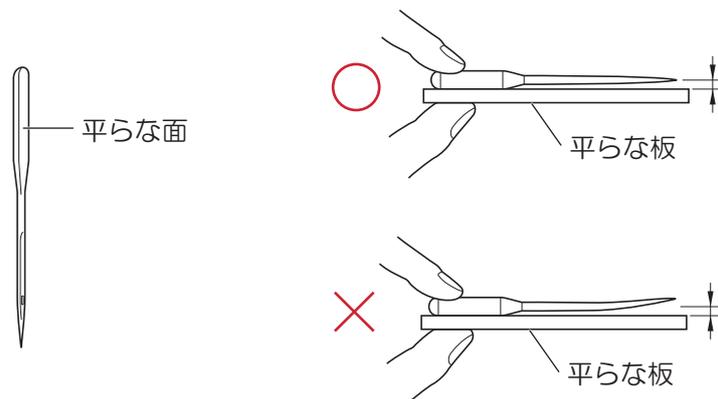


		薄地	普通地	厚地
針・糸・布地の関係	針 	75/11 番	90/14 番	100/16 番
	糸 	ポリエステル 90 番 綿 80 番～120 番 絹 80 番	ポリエステル 50 番～60 番 綿 60 番～80 番 絹 50 番～80 番	ポリエステル 30 番～50 番 綿 40 番～50 番 絹 50 番
	布地 	一般裏地 キュプラ ジョーゼット □ーン レース等	一般服地 ブロード ソフトデニム サテン パイル地 ギンガム等	カーテン地 デニム キルティング フリース ツイード フェルト
糸調子の目安	上糸調子ダイヤル  -1 ~ -3	 ▽	 +1 ~ +3	

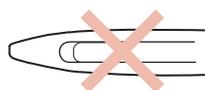
- 伸縮性のある布地には、市販のボールポイント針を使用するとよりきれいにぬえます。
- 付属品にない針は、家庭用ミシン針とご指定のうえ、お買い求めください。
- 上糸と下糸は同じ種類の糸を使います。
- 針の番手が大きくなると針が太くなります。糸の番手が大きくなると糸が細くなります。
- 針・糸・布の組み合わせによって、糸調子の調整が必要になります。
(47 ページを参照ください。)

正しい針の見分けかた

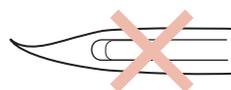
曲がった針は、使用中に折れるおそれがあり大変危険です。使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



× 不良針



・ 針先がつぶれている



・ 針先が曲がっている

⚠ 注意



不良針は使わない。

不良針を使うと、ぬえないばかりでなく、針板やかまにキズがついたり、針が折れてケガの原因になります。

(お願い)

針先がつぶれや曲がりを目で見てわかりにくいことが多いので、ぬい調子が悪い場合は、針の交換をお願いします。

5

ぬう前のミシンの準備

電源のつなぎかた

⚠ 警告



濡れた手で電源プラグに触れない。
感電の原因になります。

⚠ 警告

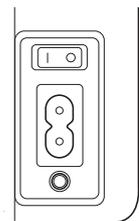
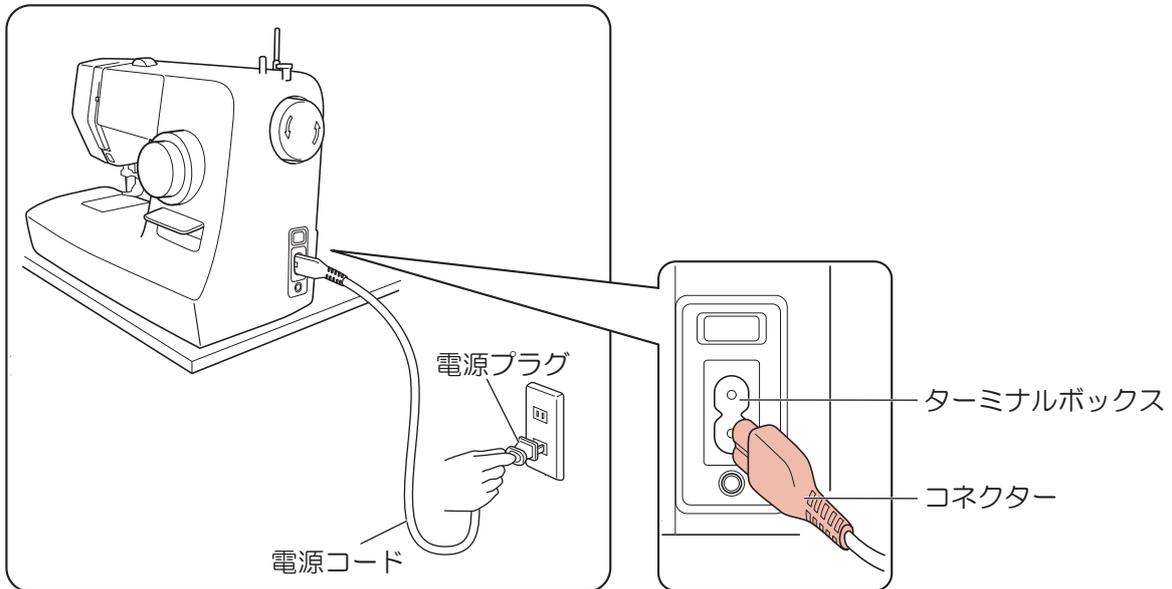


電源プラグを抜くときは電源プラグを持つ。
電源コードが痛み、感電・火災・ケガの原因になります。

⚠ 注意



電源プラグを差し込むときは電源スイッチを「切」にする。
ケガの原因になります。



「入」



「切」

- 1 電源コードのコネクターをターミナルボックスに差し込む。
- 2 電源プラグをコンセントに差し込む。
- 3 電源スイッチを「」(入)の方に押す。電源が入ります。

針の取り替えかた

⚠ 注意



- 針を取り替えるときは、電源スイッチを「切」にする。
ケガの原因になります。
- 折れた針は 必ず回収する。
ケガの原因になります。

ワンポイント

針板の穴に針が落ちないように、針板の上に紙や布を敷いて交換することをおすすめします。

1

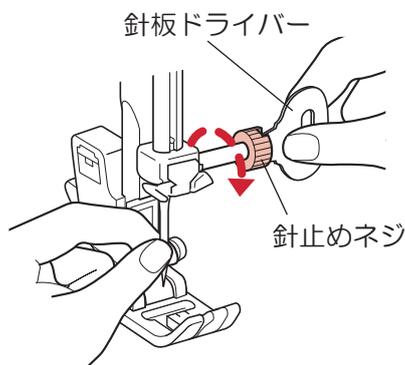
プーリーを手前に回して針先を針板より上にする。

※針を一番上まで上げた状態では針板ドライバーが回りません。

2

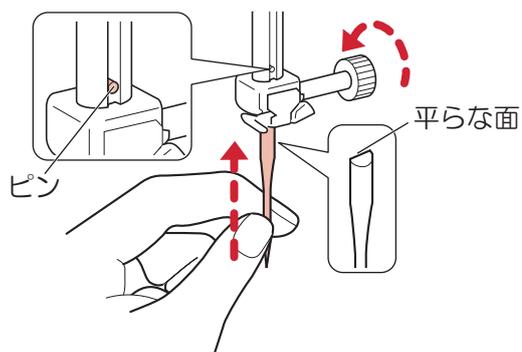
片手で針を持ち、付属の針板ドライバーで針止めネジをゆるめて針を抜き取る。

※針止めネジは針が抜きとれる程度にゆるめてください。



3

針の平らな面を後ろ側に向け、ピンにあたるまで差し込み、針止めネジを針板ドライバーでしっかり締め付ける。



押えの取り替えかた

⚠ 注意

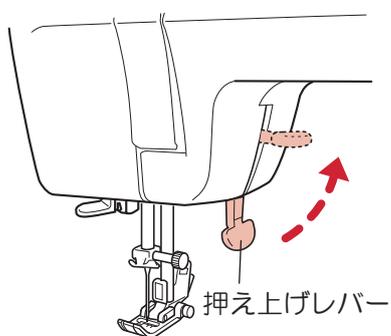


押えを取り替えるときは、電源スイッチを「切」にする。
ケガの原因になります。

● 取りはずしかた

1

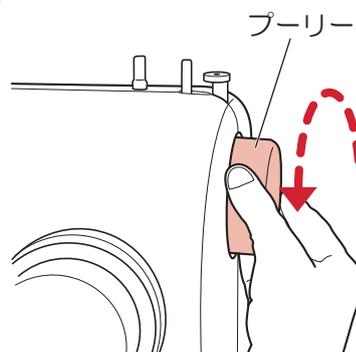
押え上げレバーを上げる。



2

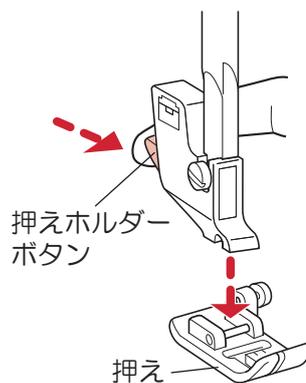
プーリーを手前に回し、針を上げる。

(お願い)
プーリーは必ず手前に回してください。
反対側に回すと糸がからむ原因になります。



3

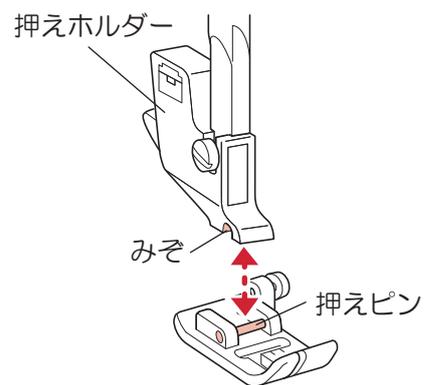
押えホルダーボタンを矢印の方向に
押し、押えをはずす。



● 取り付けかた

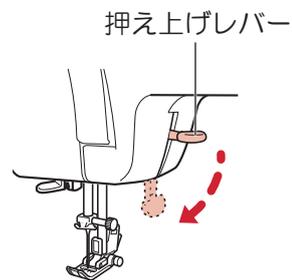
1

押えホルダーのみぞの真下に押えピンがくるように置く。



2

押え上げレバーをおろし、押えをセットする。



ワンポイント

押え紛失防止のため、ミシンを使い終わった後は、針を下げ、押えを下ろして収納することをおすすめします。

6

ミシンに糸をセットする

下糸をボビンに巻きましょう

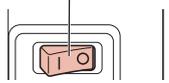
(お願い)
専用ボビン
を用意してください。



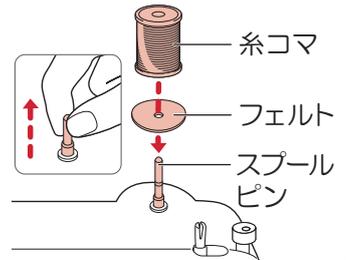
スタート

1 電源を切る。

電源スイッチ



2 スプールピンを引き上げる。
フェルト、糸コマを入れる。
※フェルトがスプールピンに
セットされていることを
確認してください。



完了

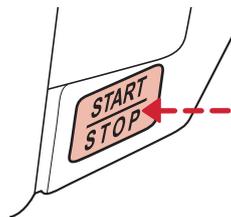
12 ① 下糸巻き軸を矢印方向
に戻す。
(お願い)
下糸巻き軸を戻さないと、
針は動かず、ぬうことが
できません。

② 下糸巻き軸からボビン
を抜き、糸を切る。

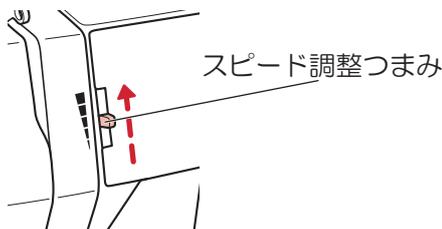


11 ① スタート/ストップボタンを押して糸を巻く。

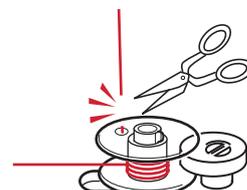
② ボビンの回転がゆっくり
になったらスタート/ス
トップボタンを押し糸巻
きを止める。



10 早く巻くために、スピード調節つまみ
を上スライドさせる。



9 ボビンの穴からでてい糸を切る。
※穴から出ている糸は、ボビンから
出ないように切ってください。



糸案内 (3)

スピード調整
つまみ
(7 10)

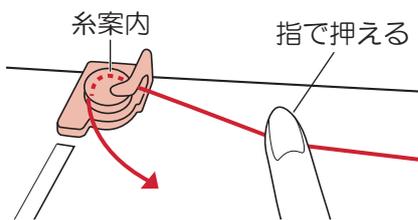
スタート/ストップ
ボタン (8 11)

⚠ 注意

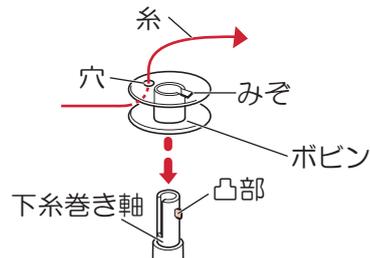


下糸を巻いているときは、下糸巻き軸およびプーリーに触れない。
ケガの原因になります。

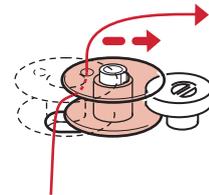
- 3** 糸コマから糸を引き出し、片方の手で糸をおさえ、もう一方の手で図に示す糸案内に糸を通す。



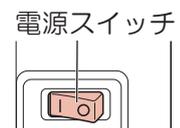
- 4** 糸の端を図のように、ボビンの穴に通す。下糸巻き軸の凸部にボビンのみぞがあうようにして軸に入れる。



- 5** カチッと音がするまで下糸巻き軸を矢印方向に押す。



- 6** 電源を入れる。

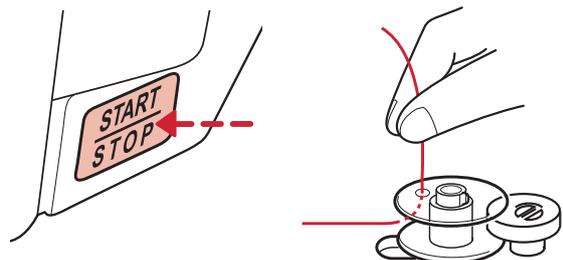


- 7** ゆっくり巻きはじめるためにスピード調節つまみを下にスライドさせる。



- 8** ① 右手で糸端を持ち、左手でスタート/ストップボタンを押し巻き始める。

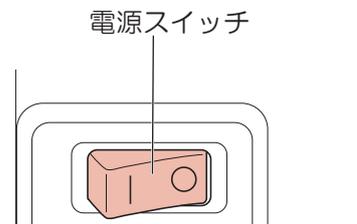
- ② 10回くらい巻いたあとスタート/ストップボタンを押して、一度ミシンを止める。



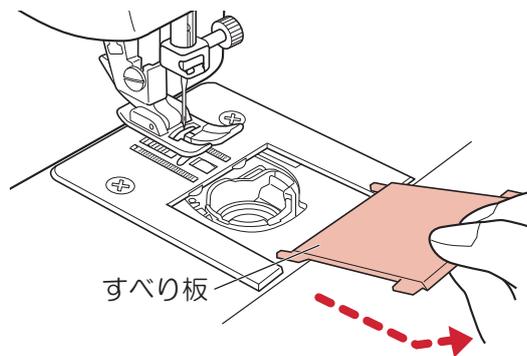
下糸をセットしましょう

すべり板を開け、ボビンをボビンケースに入れます。
ボビンが、ボビンケースに正しくセットされていないとききれいなぬい目になりません。

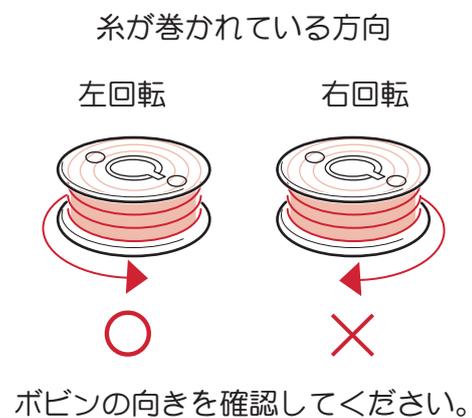
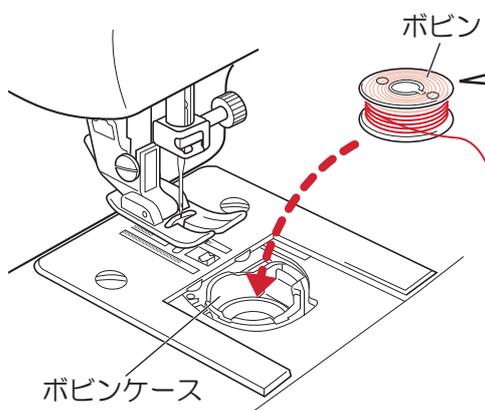
1 電源を切る。



2 すべり板を手前に引きはずす。

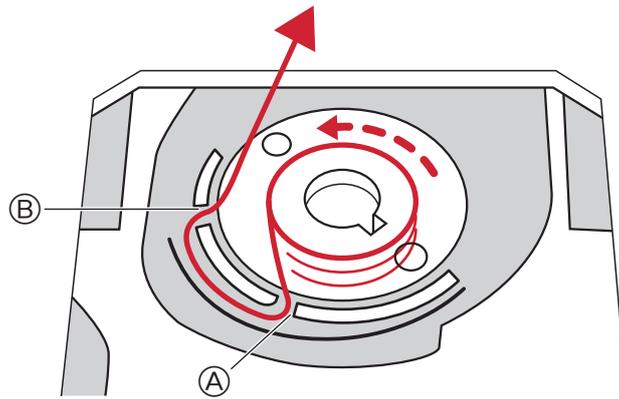


3 ボビンを左回転になるようにボビンケースに入れる。



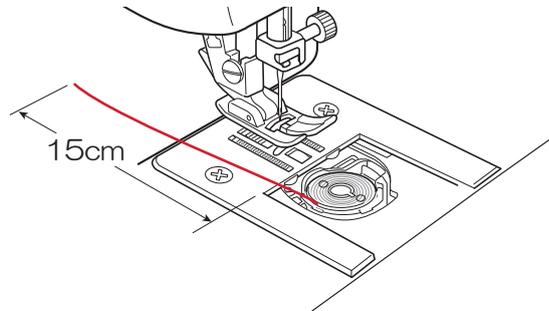
4

糸を下図のように ① から ② に通し、後方へ引き出す。



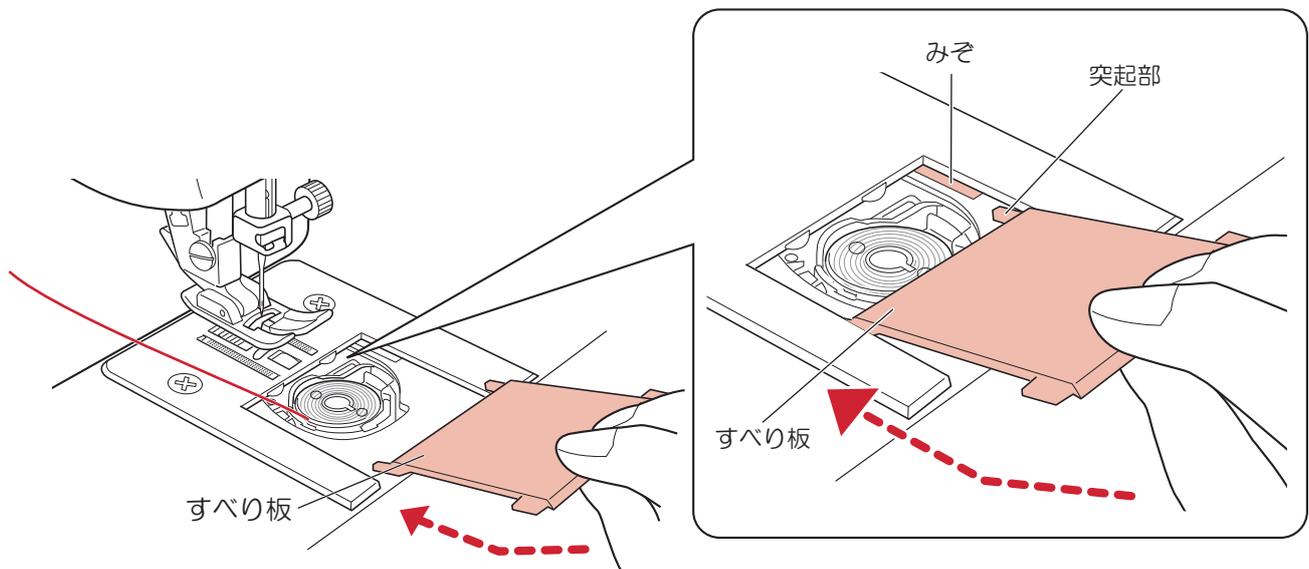
5

糸を 15cm ほど後ろへ引く。



6

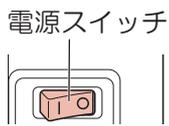
すべり板の突起部をみぞに入れてすべり板を押して閉める。



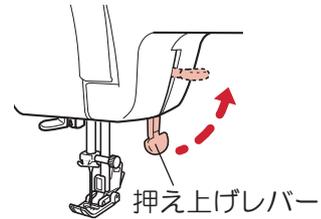
上糸をかけましょう（かけかたの流れ）

スタート

1 電源を切る。

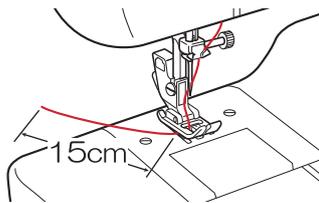


2 押え上げレバーを上にあげる。



完了

9 糸の端を押えの間に通して
後ろ側に15cmほど引き出す。



8 針穴に正面から糸を通す。
※糸通し器を使うときは、
28ページをご覧ください。



糸案内 (5)

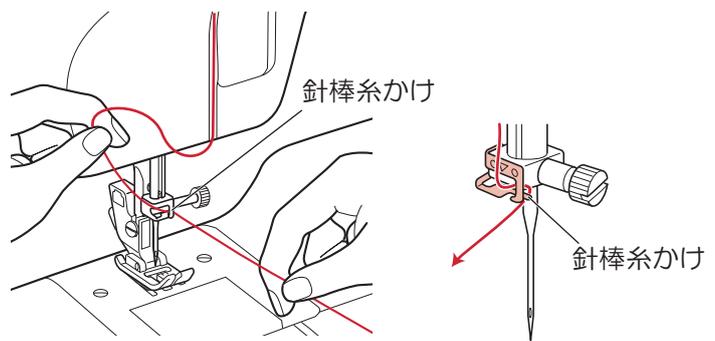
天びん (6)

針棒糸かけ (7)
針穴 (8)
押え (9)

押え上げレバー
(2)

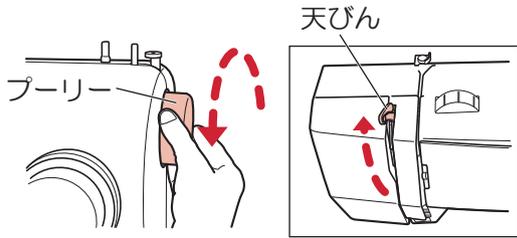
詳しい図は 33 ページ

7 針棒糸かけに糸をかける。

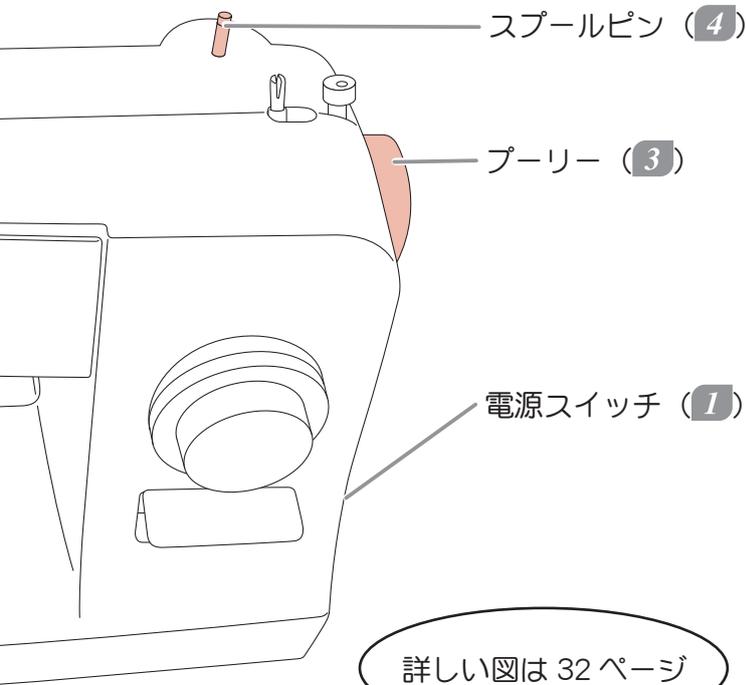
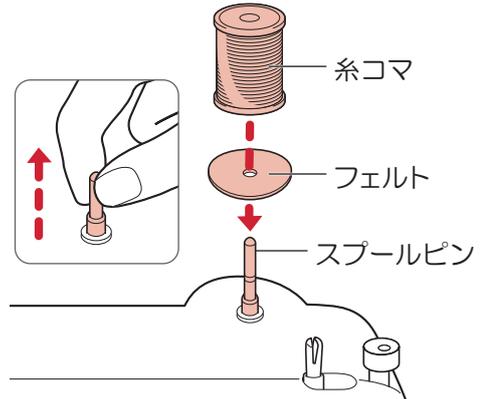


図のように左手で糸を保持し、右手で糸かけをおこなうと糸かけがしやすくなります。

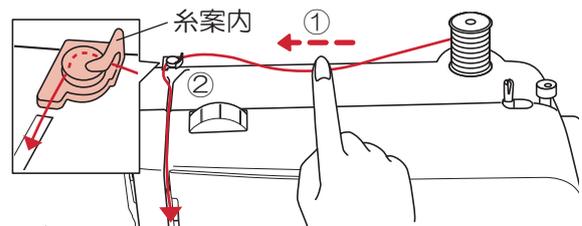
3 プーリーを手前に回し、天びんが上
上がるまで回す。



4 スプールピンを引き上げる。
フェルト、糸コマを入れる。
※フェルトがスプールピンに
セットされていることを
確認してください。



5 ① 糸コマから糸を引き出し、片方
の手で糸を押さえる。
② もう一方の手で図に示す糸案内
糸を通す。



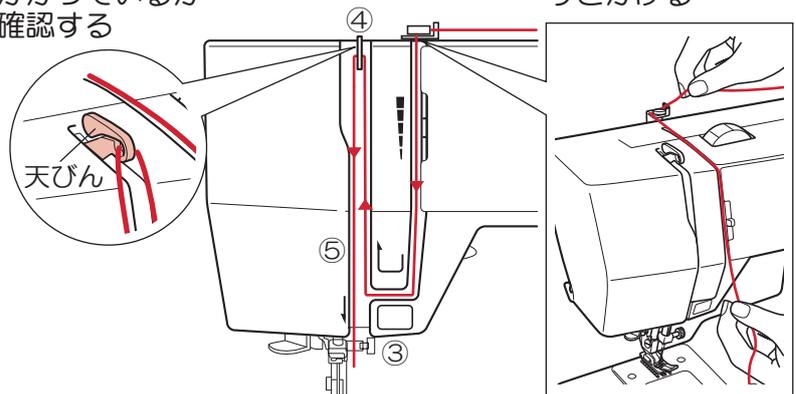
6 ③ みぞにそって下に引き、
Uターンさせる。
④ 天びんの右側からかける。
⑤ みぞにそって下に引く。

※この手順が終わったら、
31 ページの方法で正しく
上糸かけができていますか
確認しましょう。

天びんに糸が
かかっているか
確認する

番号順に糸を通す
(③~⑤)

糸を張ってしっか
りとかける



糸通し器を使ってみましょう

⚠ 注意



糸通し器を使用するときは、電源スイッチを「切」にする。
ケガの原因になります。

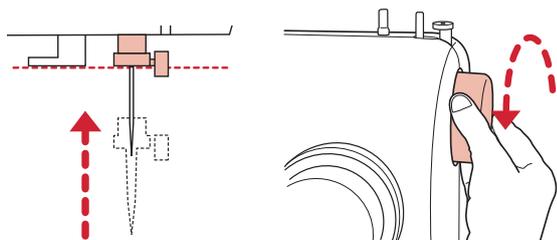
※糸通し器が使える針は、“11～16番”です。（ご購入時には14番が付いています）
針に対して糸が太いと、糸通しができません。針と糸の組合せは、16ページの“針と糸と布地の関係と糸調子の合わせかた”をご覧ください。

● 糸通し器を使う前の準備

1

プリーを手前に回し針が一番上に上がった状態にする。

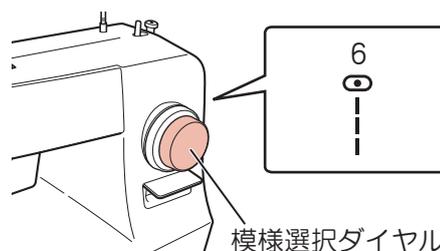
※針が一番上に上がっていないと糸が針に通りません。



2

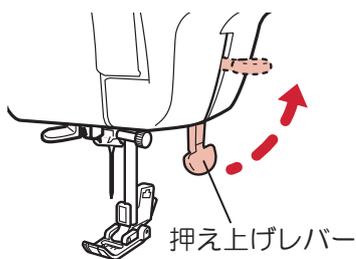
模様選択ダイヤルを回して、直線模様（番号6）を選択する。

※糸通し器が正常に動かず、糸が針に入らないことがあります。



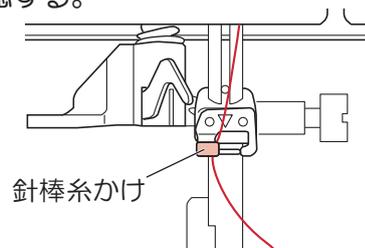
3

押え上げレバーを上げる。

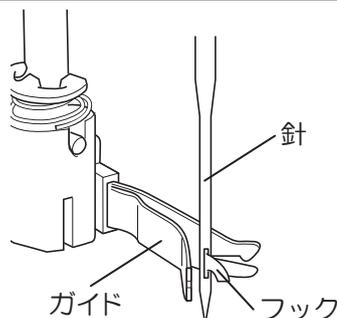
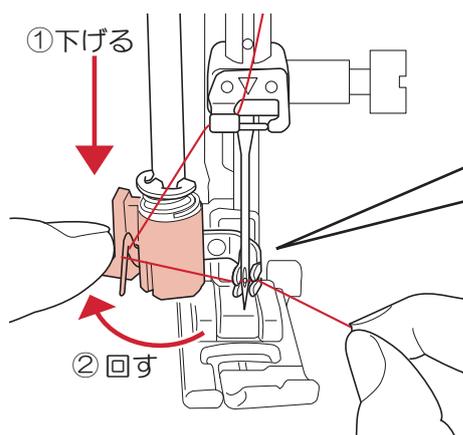


4

針棒系かけに糸がかかっていることを確認する。



● 糸通し器のしくみを知りましょう

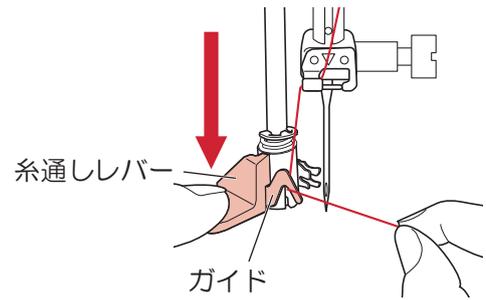


ガイドの中にフックがあります。フックが針穴を通り、糸をひっかけて糸を通すしくみになっています。

● 糸通し器の使いかた

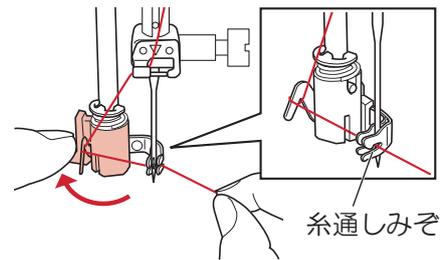
1

糸通しレバーが止まる位置まで下げながら、
図のように糸をガイドにかける。



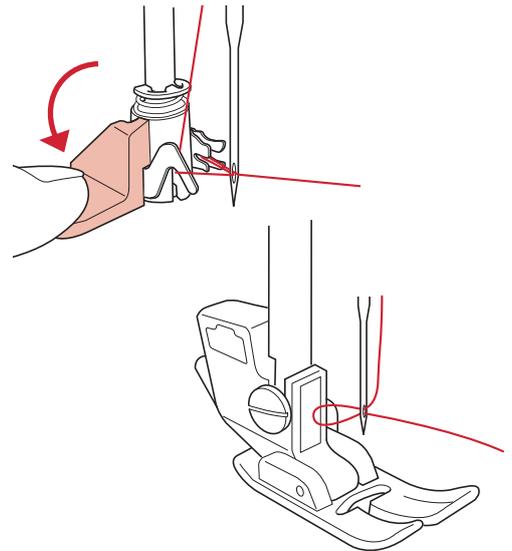
2

糸通しレバーを後ろに止まるまで回し、糸を張り
ながら糸通しみぞに入れる。



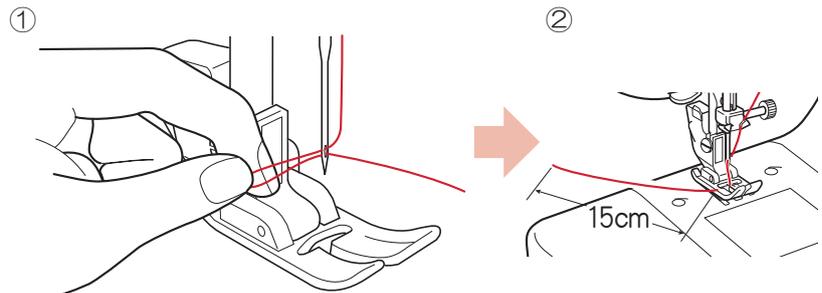
3

- ① 糸通しレバーを止まるまでゆっくり手前に戻す。
 - ② 糸が針穴に通っていることを確認する。
 - ③ 糸通しレバーから指をはなすと同時に糸をはなす。
- ※糸が針穴に通ってないときは、針が一番上に上がっているか確認し **1** からやり直してください。



4

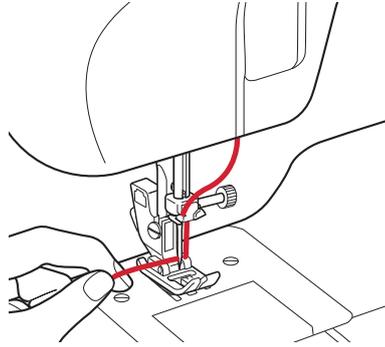
針穴の後ろにできた糸の輪を 15cm ほど後ろに
引き出す。



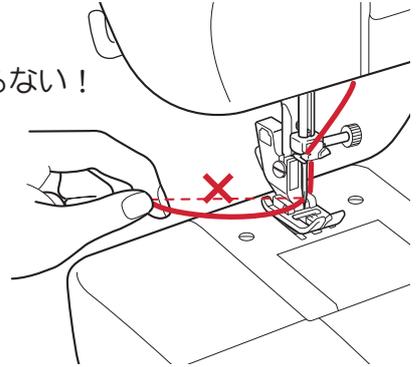
下糸を引き上げましょう

1

押え上げレバーを上
げる。上糸をゆっ
たりと左手で持ち、
プーリーを手前に完
全に一回転させる。

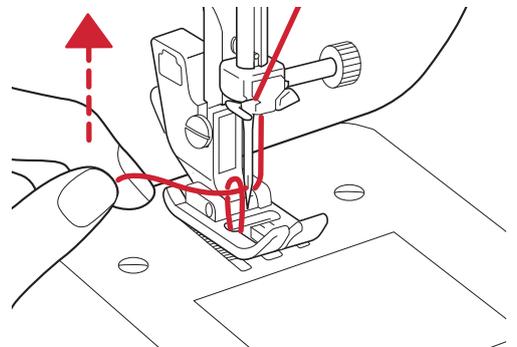


糸は張らない!



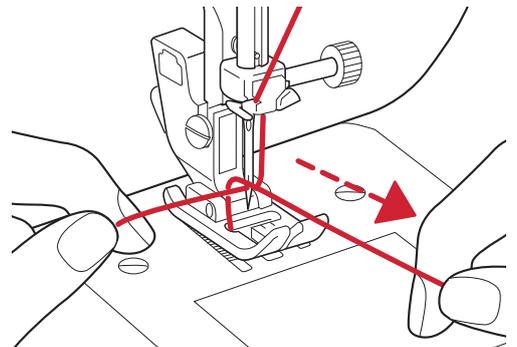
2

左手で上糸を軽く引っ張り上げると、
下糸がついてあがります。



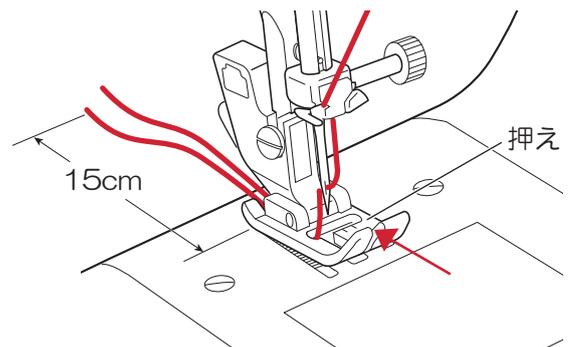
3

下糸を手前に引き出す。



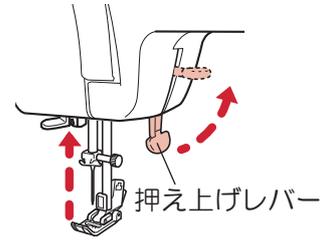
4

両糸をそろえてみぞ（矢印）にいれ、押えの下
を通して後ろに糸を 15cm ほど引き出す。

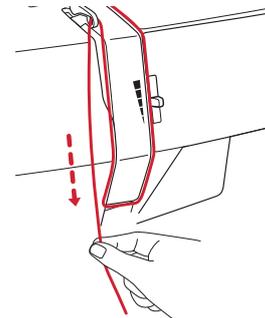


正しく糸かけできているか確認しましょう

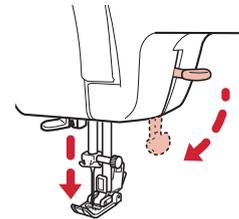
1 押え上げレバーを上げる。



2 上糸を手前に引き出す。
糸が抵抗なくスムーズにでてきます。

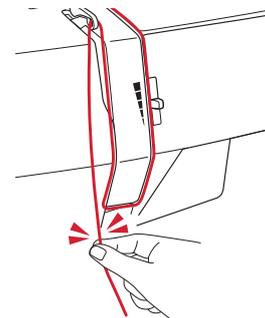


3 押え上げレバーを下げ、押えを下げる。



4 もう一度、上糸を手前に引き出す。抵抗があり、糸がでにくい場合は正常です。

※正しく糸かけができた場合は 26 ページ **7** へ

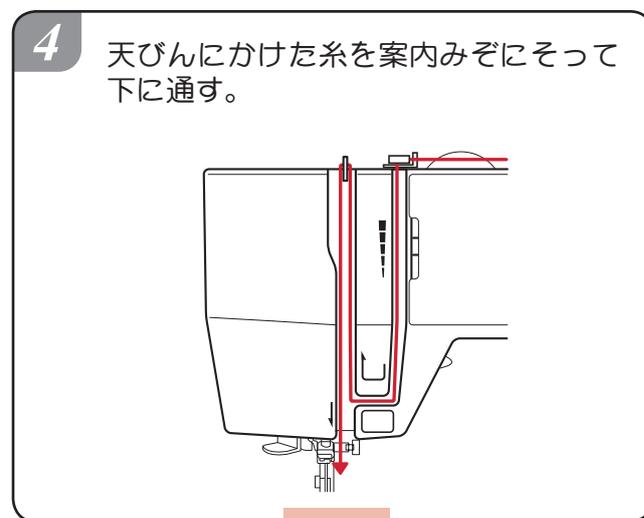
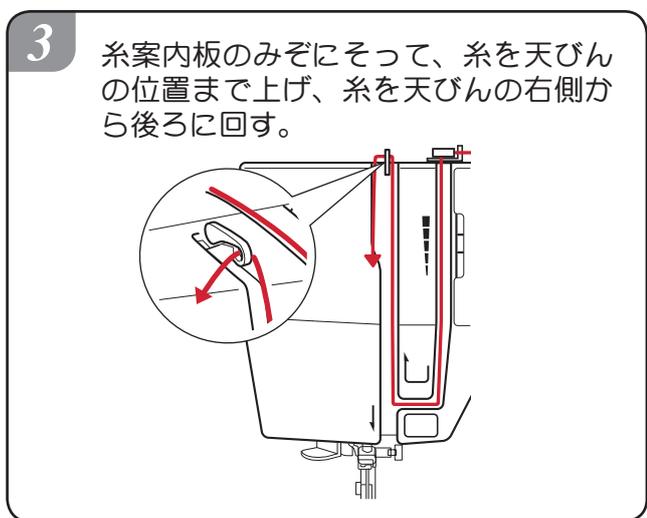
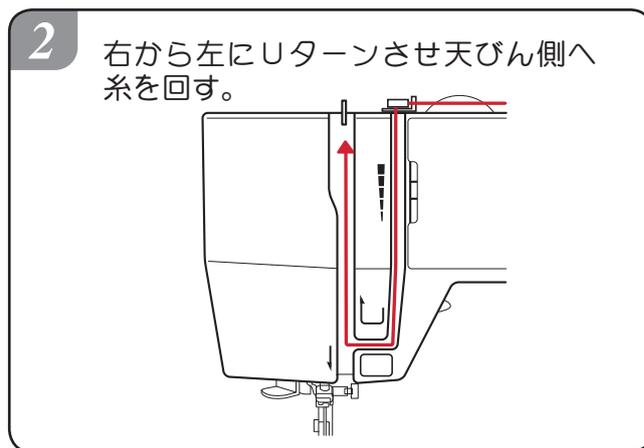
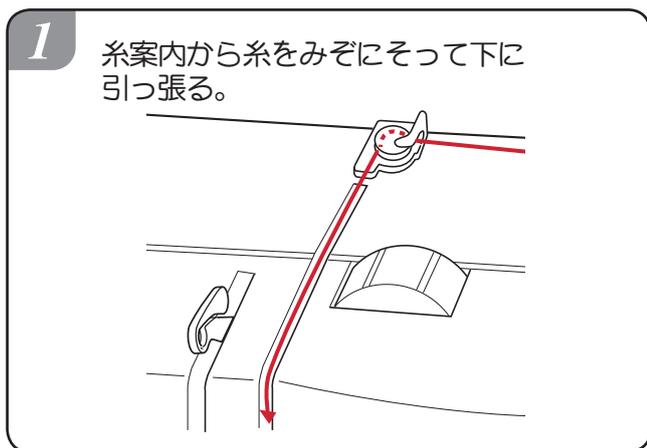
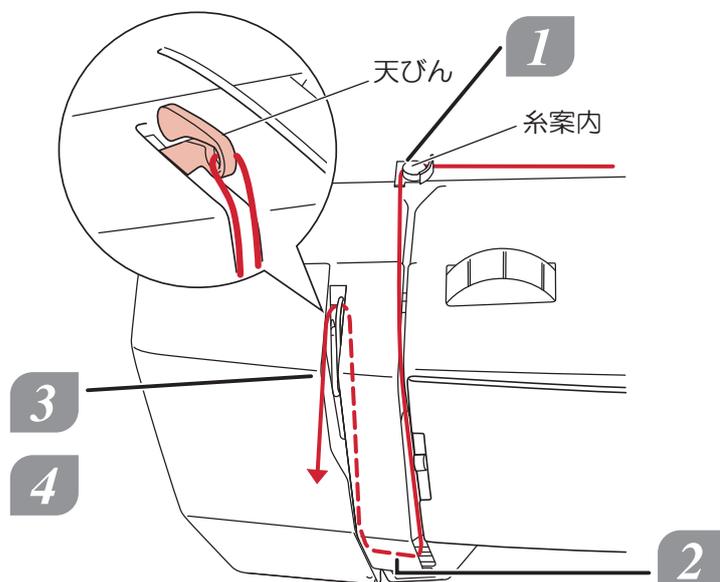


● 正しく糸かけができていない場合

4 の手順で、糸が抵抗なくスムーズにでてくる場合は、正しく糸かけができていません。26 ページ **2** の手順から、もう一度やり直してください。

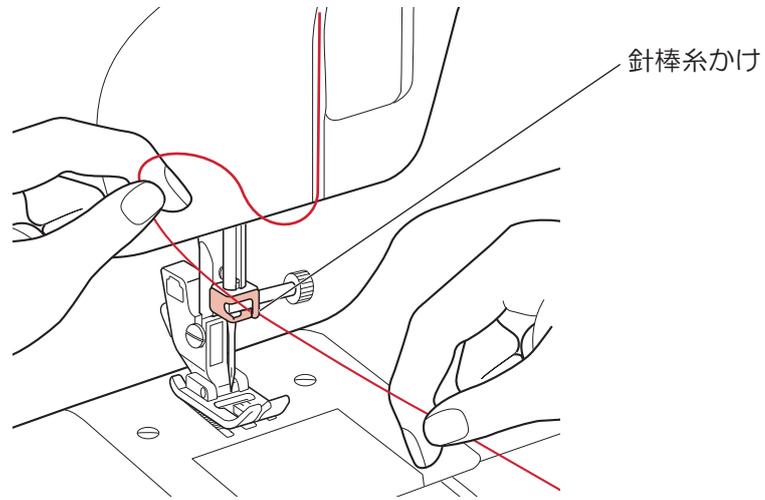
上糸をかけましょう（かけかたのポイント）

● 天びんに糸をかける

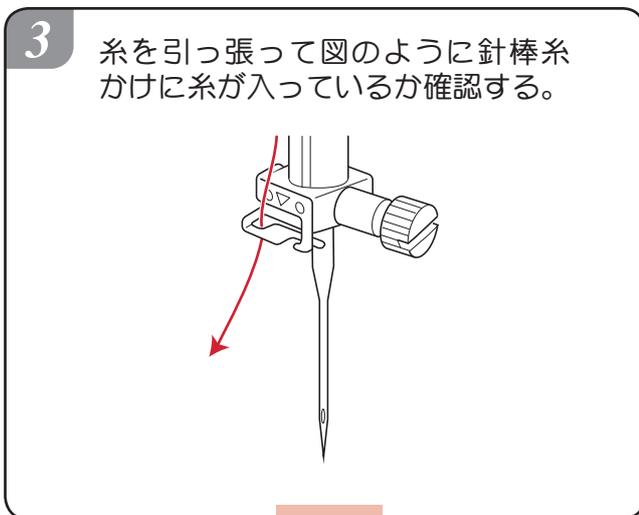
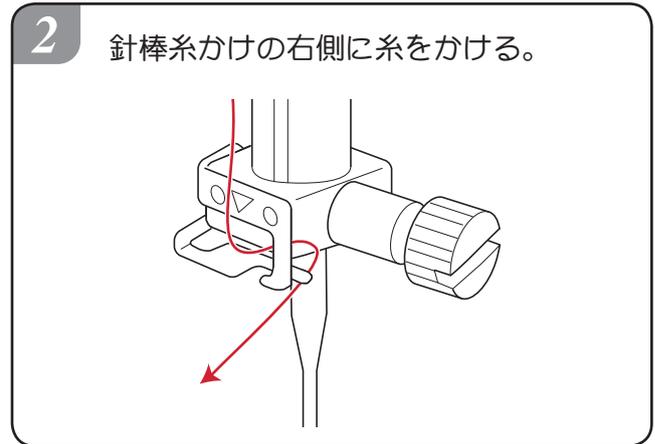
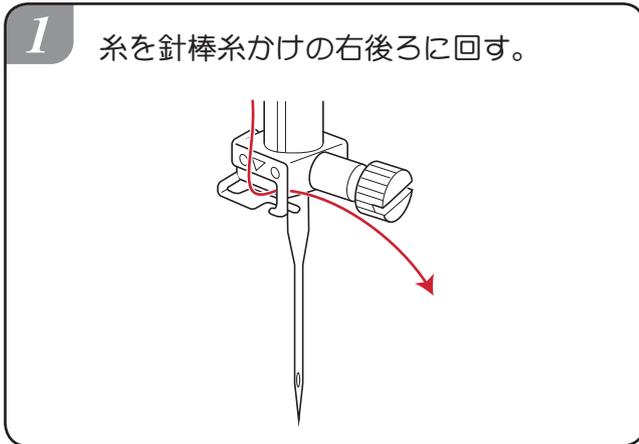


26 ページ **7** へ

● 針棒系かけに糸をかける



図のように左手で糸を保持し、右手で糸かけをおこなうと糸かけがしやすくなります。



26 ページ **8** へ

7

ぬってみましょう

基本編

! 注意



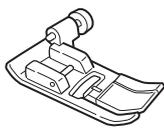
ぬっているとき布を無理に引っ張ったり押ししたりしない。
針が折れ、ケガの原因になります。

● 直線ぬい

1 プーリーを手前に回して針を上げる。

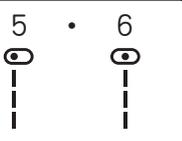
2 模様選択ダイヤルを回して、模様を選択する。
ぬい目の長さを「1～4」の間に合わせる。

ジグザグ押え



※押えの取り替えかたは、
20ページへ

1～4

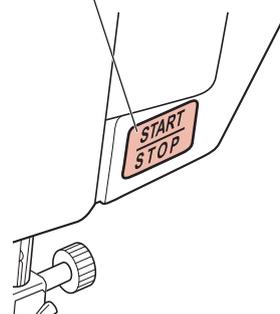


3 布をセットし、押え上げ
レバーを下げる。

4 電源を入れる。

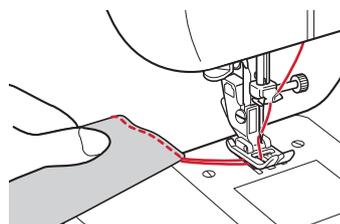
5 スタート/ストップボタンを押し
ぬいはじめる。

スタート/ストップ
ボタン



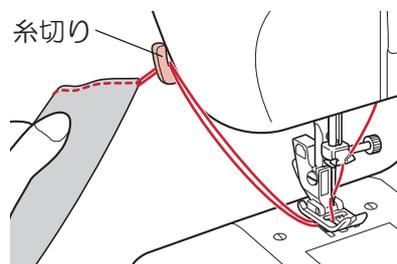
■ ぬい終わり

スタート/ストップボタンを押して
ミシンを止めます。
ぬい終わったら、プーリーを手前に回して
針を布からはずし、押えを上げて布を
後方へ引き出す。



● 糸切り

2本の糸をそろえて面板の糸切りで糸を切る。



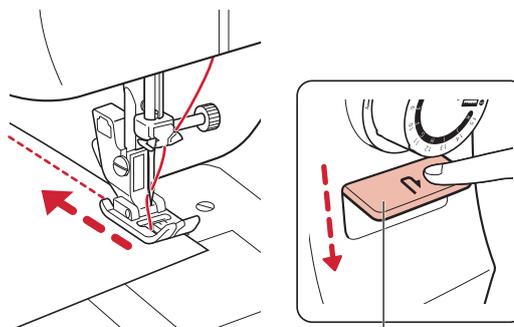
● 返しぬい

返しぬいは、ぬい始めやぬい終わりのほつれを防ぐために行います。

返しぬいレバーを下げている間は、返しぬいを行います。

- ぬい始めのほつれ止めは、布端から1～2cmぬう。
- ぬい終わりは3～4針返しぬいをする。

※返しぬいレバーから指をはなすとミシンが止まります。



返しぬいレバー

応用編

⚠ 注意

❗ 押えを交換するときは電源スイッチを「切」にする。
ケガの原因になります。

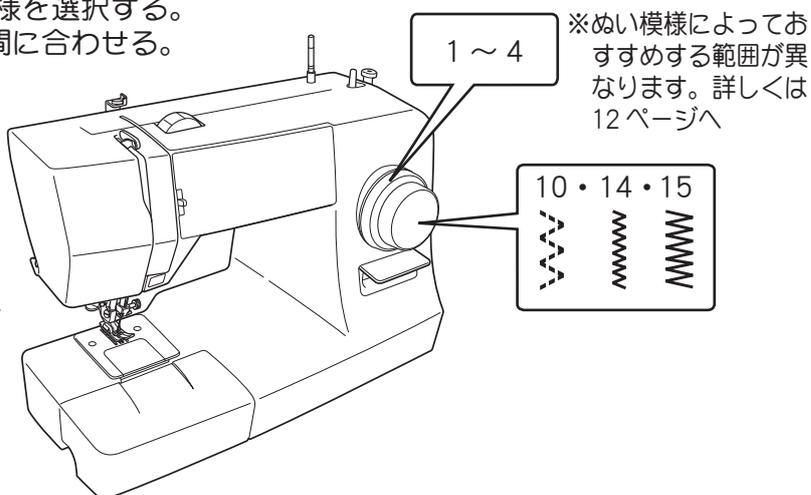
● ジグザグぬい

1 プーリーを手前方向に回して針を上げる。

2 模様選択ダイヤルを回して模様を選択する。
ぬい目の長さを「1～4」の間に合わせる。



※押えの取り替えかたは、
20 ページへ



3 布をセットし、押えを下げる。
スタート/ストップボタンを押してぬい始める。

- 裁ち目かがりぬい
布端のほつれを防ぐぬいかたです。

■ 裁ち目かがり押えを使用する場合

⚠ 注意

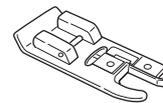
- ❗ 裁ち目かがり押えを使う場合は、必ず No.15 の模様を使用する。
その他の模様では針が押えに当たり、針が折れ、ケガの原因になります。

1

- ① 針を一番上に上げ、模様選択ダイヤルを回して No.15 を選択する。
- ② ぬい目の長さを「1 ~ 4」の間に合わせる。
- ③ 裁ち目かがり押えにとりかえる。

裁ち目かがり押え

15

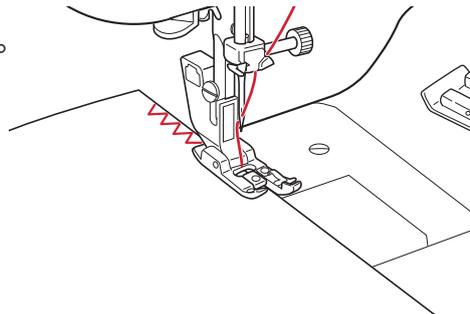


(お願い)
プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。

2

押えのガイドに布端を当てながらぬう。

※ガイドに合わせてぬうことで、針落ちを気にせず、ぬうことができます。



ガイド

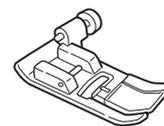
■ ジグザグ押えを使用する場合

1

- ① 針を一番上に上げ、模様選択ダイヤルを回して模様を選択する。
- ② ぬい目の長さを「1 ~ 2」の間に合わせる。
※薄物をぬうときは No.10 の模様を選びます。
- ③ ジグザグ押えにとりかえる。

ジグザグ押え

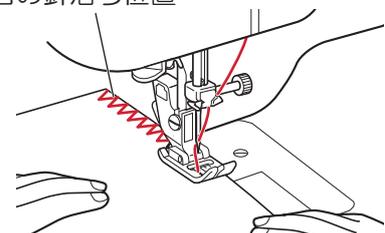
10 14



2

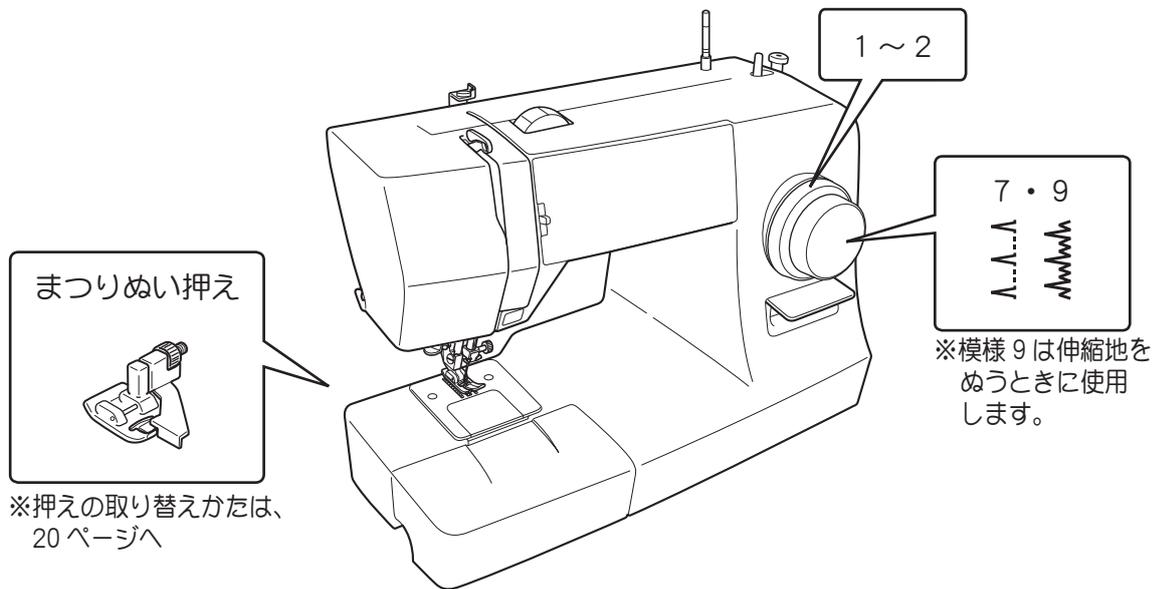
右の針落ち位置が、布端より少し外側になるように布の位置を合わせてぬう。

右の針落ち位置



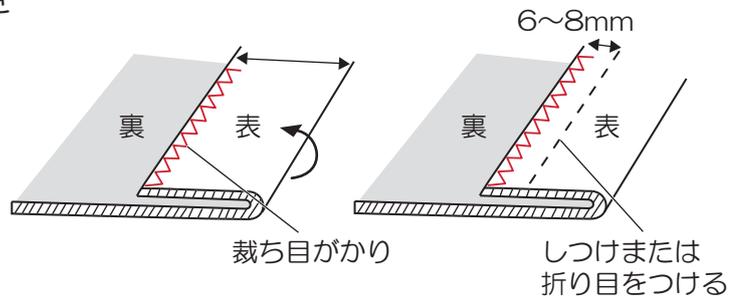
● まつりぬい

スカートやズボンのすそをまつるときに使用します。布地の表側にぬい目が見えないぬいかたです。

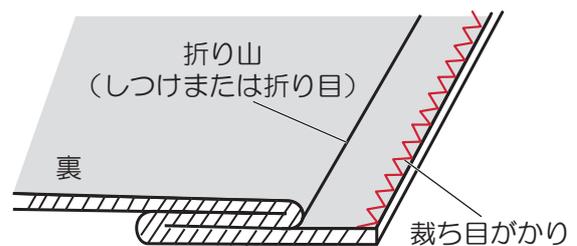


1 布端に裁ち目がかりをして図のように折る。

※布端から「6~8mm」のところまで、しつけまたはアイロンで折り目をつけます。

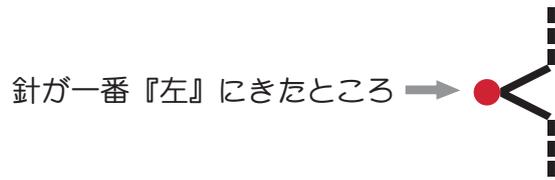


2 しつけまたはアイロンで折り目をつけたところから折り返し、布地の裏を上側にする。



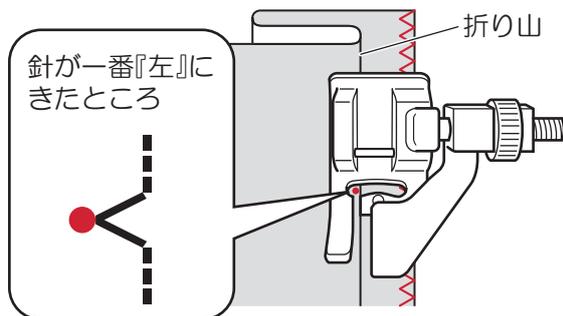
3

プーリーを手前に回し、針が一番『左』
にきたところでミシンを止める。



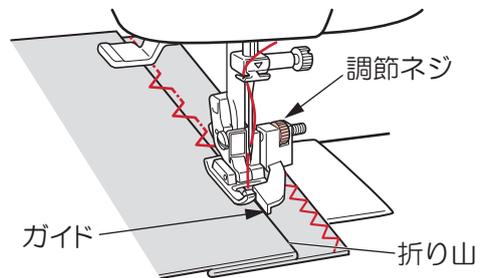
4

針が折り山に少しかかるように布地を
合わせる。



5

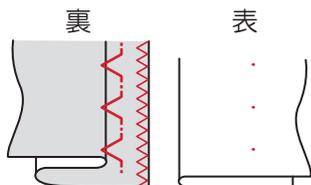
押え上げレバーを下げ、折り山にガイドが当たる
ように調節ネジで調節し、ガイドに折り山を
当てながらぬう。



ぬって
みまじ
りし

■ 正しいぬい目

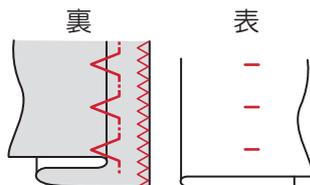
表側に小さく均等にぬい目が出ている。



(ひろげた状態)

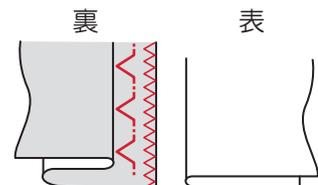
■ このようなときは

針が折り山にかかりすぎた場合



表側に出るぬい目が大きくなる。

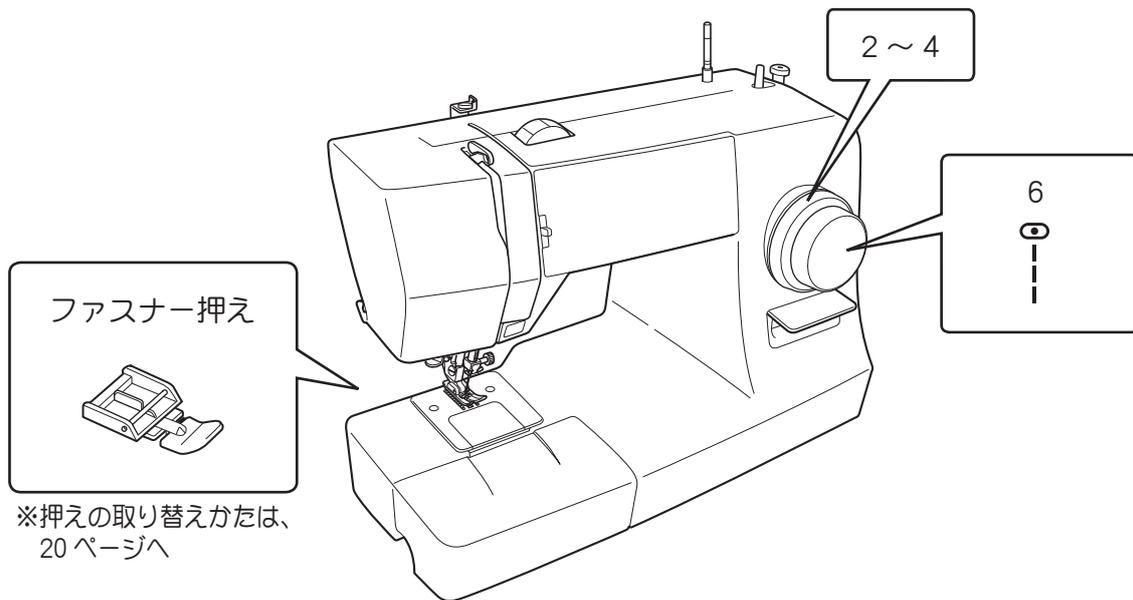
針が折り山にかからない場合



まつりぬいができている。

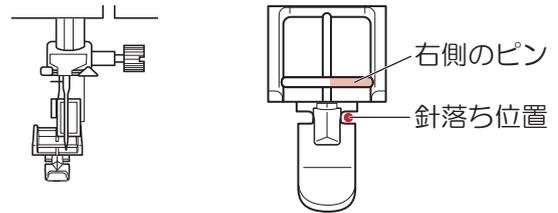
● ファスナー付け

ファスナーの左側を先にぬう場合の手順です。

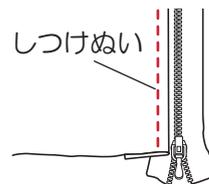


■ ファスナーの左側をぬう場合

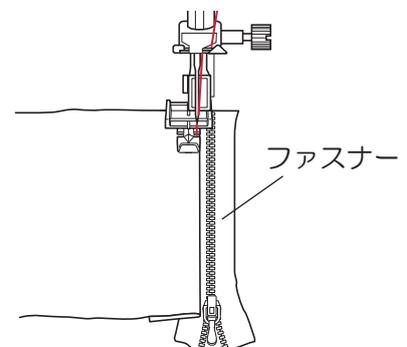
- 1** ファスナー押えの右側のピンを押えホルダーにセットする。



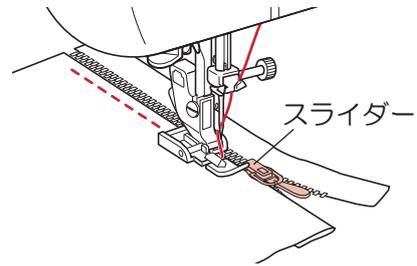
- 2** ファスナーと布を合わせ、しつけをする。



- 3** ファスナーが押えの右側にくるように布を置く。



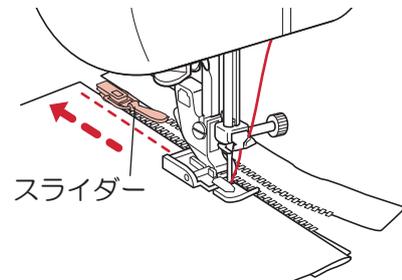
- 4 押えがスライダーに当たる手前までぬい、ミシンを止める。



- 5 プーリーを手前に回して針を布に落とす。

- 6 押え上げレバーを上げる。

- 7 スライダーを押えの後ろ側に移動させて、残りをぬう。

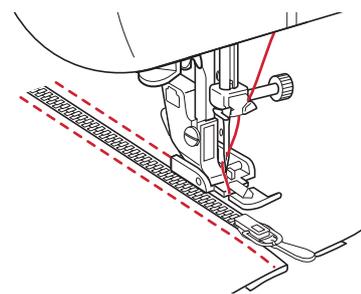


■ ファスナーの右側をぬう場合

押えをはずし、左側のピンにセットする。左側のぬいかたと同じ要領でファスナーの右側をぬう。

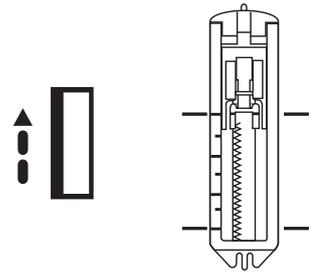
ワンポイント

左側と同方向にぬうとぬいズレを防ぐことができます。



3

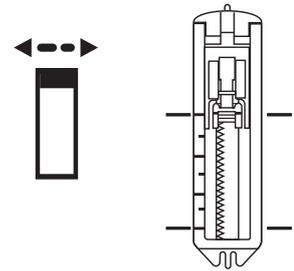
針を一番上に上げ模様選択ダイヤルを[1]にセットし、左側をぬい、布地の印に合わせて止める。



4

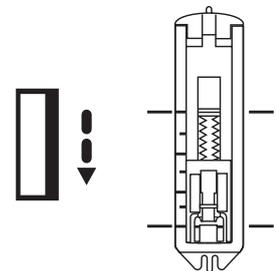
針を一番上に上げ模様選択ダイヤルを[2]にセットし、かんぬき止めに5～6針ぬう。

模様選択ダイヤルの[2]と[4]は同じダイヤル位置を使用する。



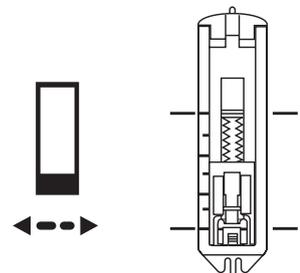
5

針を一番上に上げ模様選択ダイヤルを[3]にセットし、右側をぬい、布地の印に合わせて止める。



6

針を一番上に上げ模様選択ダイヤルを[4]にセットし、かんぬき止めに5～6針ぬう。



⚠ 注意



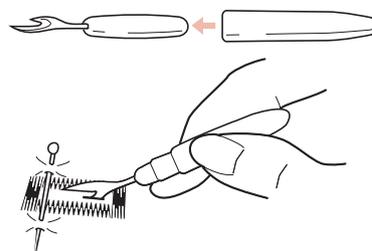
付属のリッパーでボタンホールの切り込みをするときはリッパーの向こうに指や手を置かない。

手にケガをする原因になります。

7

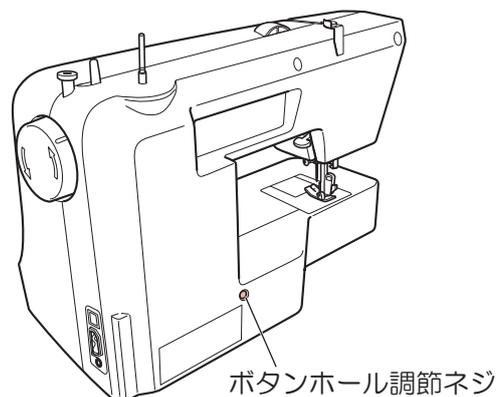
付属のリッパーでぬい目を切らないように中央を切り開く。

※まち針をかんぬき止め部に刺しておくと、リッパーでの切り込みすぎを防ぐことができます。

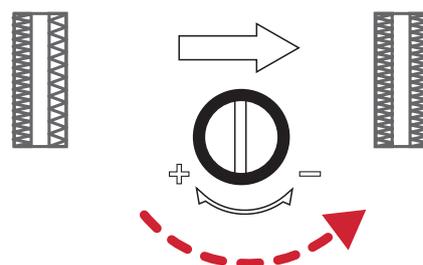


■ ボタンホールの左右目差の調節

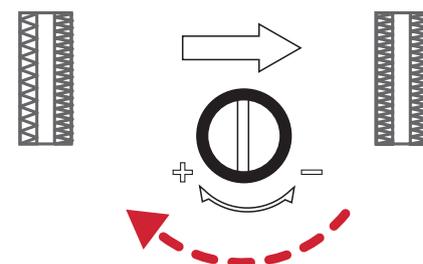
- ボタンホール調節ネジで、目差を調節することができます。(背面)
- 調節は、お手持ちのマイナスドライバーを使って回す。
- 調節ネジは 90° 以上回さない。



ボタンホールの右のぬい目が粗い場合「-」の方向へ少し回す。



ボタンホールの左のぬい目が粗い場合「+」の方向へ少し回す。

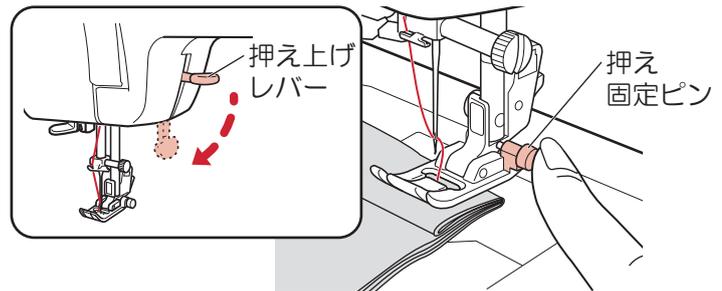


厚い布地・薄い布地をぬきたい

● 厚い布地をぬう

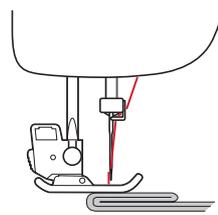
厚地を布端からぬうときは、押えが傾いて布地を送らないことがあります。

ジグザグ押えの右側のオレンジ色のボタン（押え固定ピン）を軽く持ち上げ、押しながら、押え上げレバーを下げる。

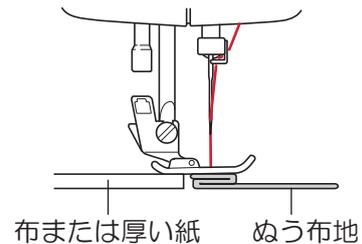


押えが水平になり、布地を送るようになります。

ぬい始めると押えは元に戻ります。

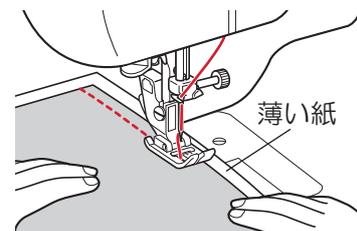


使用する布地と、同じ厚さの布地または厚紙を押えの下にあてがってぬうと、スムーズにぬうことができます。



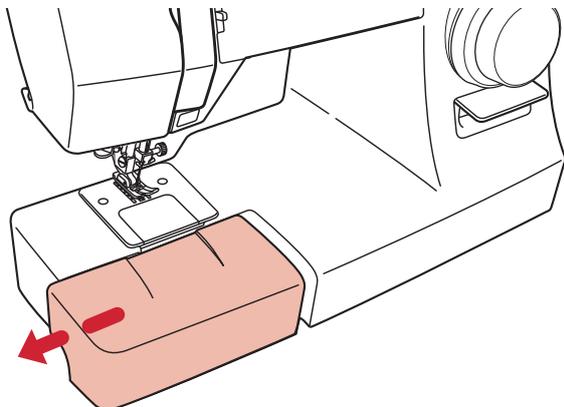
● 薄い布地をぬう

薄物をぬうとき、布がちぢんだり、正しく送らないことがあります。
このようなときは薄い紙を布の下に敷きますと簡単にぬえます。

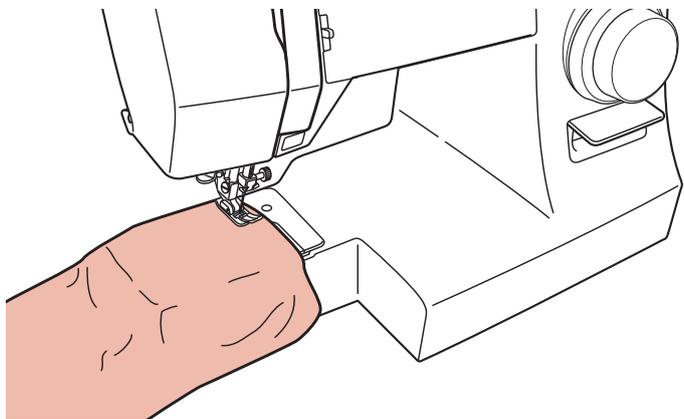


筒物の布地をぬきたい

1 補助テーブルを矢印の方向へはずす。



2 ズボン、袖口などの筒物を図に示すように筒に差し込んでぬう。



糸がつっている たるんでいる

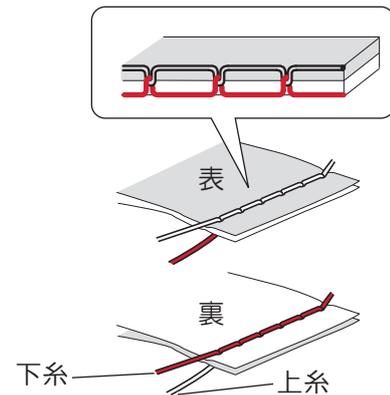
(お願い) 上糸・下糸が正しくセットされていることを確認してください。

上糸調子ダイヤルは、通常「V」に合わせてぬいます。

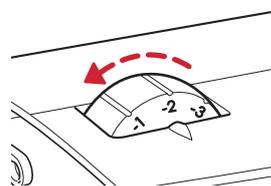
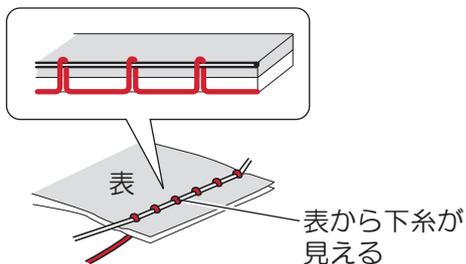


● 正しい糸調子

上糸と下糸が布地の中央で交差し、布地の表には上糸だけが、裏には下糸だけが見える状態です。

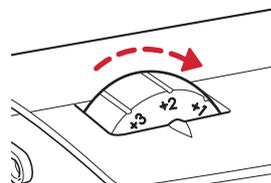
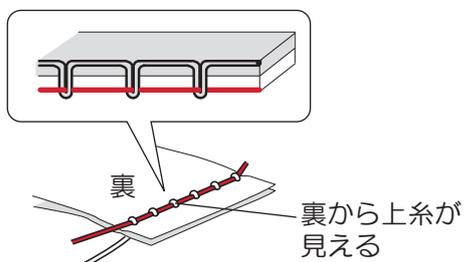


● 布地の表に下糸が見えるとき



上糸が強いので、糸調子を弱くする。

● 布地の裏に上糸が見えるとき



上糸が弱いので、糸調子を強くする。

注意

上糸調子ダイヤルを回してもかわらない場合は、上糸と下糸をかけ直してください。

布がミシンから取れなくなった

⚠ 注意



安全のために必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
ケガの原因になります。

布がミシンから取れなくなった場合、糸が針板の下でからんでいることが考えられます。
このようなときは無理に布を引っ張らないでください。故障の原因となります。

1

押えと針をはずす

(お願い)
針が布に刺さっている場合は、プーリーを
奥に回して布から針をはずしてください。



2

すべり板をはずす。

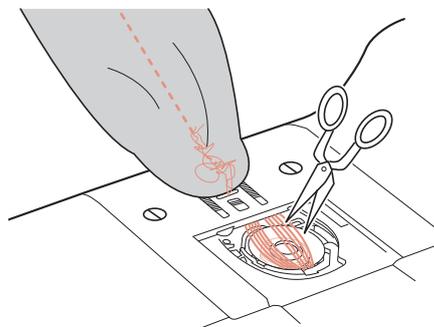
3

からんだ糸を切る。

※ここまでで布を取りはずせた場合
52 ページから 53 ページの「送り歯と
かまのお手入れ」へ

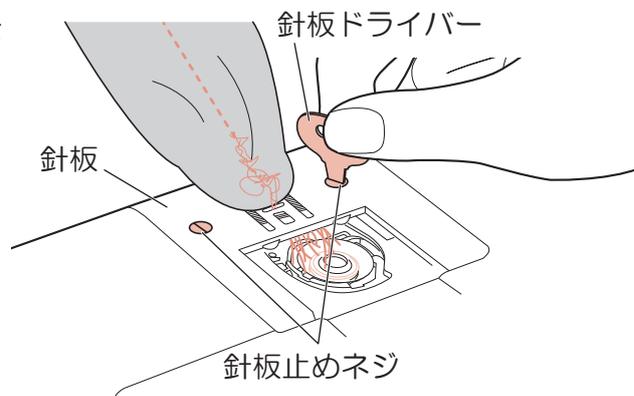
※布を取りはずせなかった場合

4 の手順へ



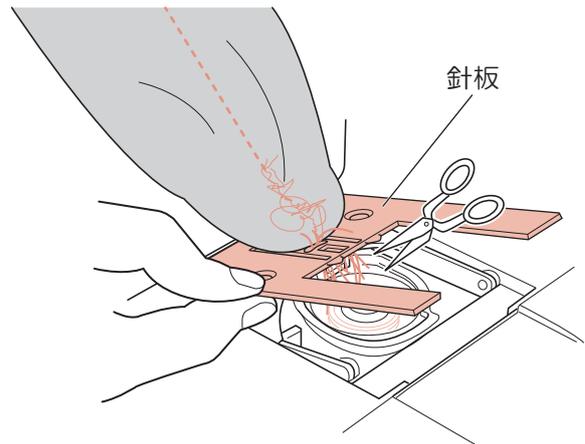
4

付属の針板ドライバーで針板止めネジを
2 ヶ所取りはずす。



5

針板を少し持ち上げ、からんだ糸を切り、針板をはずす。

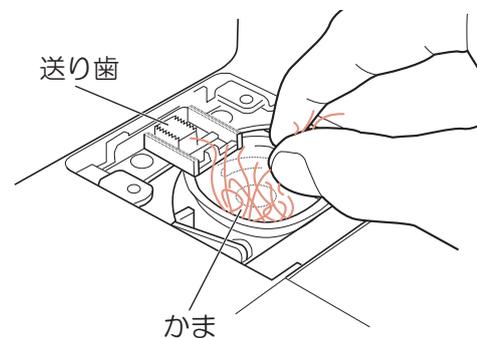


6

ボビンケースをはずし、かまや送り歯のまわりの糸を取り除く。

※ボビンケースのはずしかたは 52 ページを参照ください。

※ここまでで布を取りはずせた場合
52 ページから 53 ページの「送り歯とかまのお手入れ」へ



⚠ 注意



部品の角などで指を切らないようゆっくりと作業する。
ケガの原因になります。

布を取りはずせなかった場合は「お客様相談室」にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

お客様相談室 0120-24-8640 (フリーダイヤル)

受付時間：8:30 ~ 17:30

(土日・年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休暇は除く)

ミシンの調子が悪いとき

どこの調子が悪いのですか？
修理を依頼される前に、次のことを
順番に確かめましょう。

現象	原因	処置	ページ
ミシンが動かない	電源プラグが差し込まれていない	電源プラグを正しく接続する	18
	電源スイッチが「切」になっている	電源スイッチを「入」にする	18
	かまに糸が噛んでいる かまに折れた針が挟まっている	かま部の掃除をしてください	52
	下糸巻き軸が右になっている	下糸巻き軸を左に戻す	22
音が高い 回転が遅い	かま、送り歯に糸くずや ごみがたまっている	糸くず、ごみを取り除く	52
針が折れる	針の取り付けかたが間違っている	正しく針を取りつける	19
	針止めネジがゆるんでいる	ネジをしっかり締めつける	19
	布地にくらべて針が細すぎる	布に適した針を使う	16
	上糸の調子が強すぎる	糸調子を調節する	47
	ボビンケースが正しい位置に入っていない	ボビンケースを正しい位置に入れる	54
	ぬい模様合った押えを使用していない	ぬい模様合った押えを使用する	12
上糸が切れる	上糸、下糸のかけかたが間違っている	上糸、下糸をかけ直す	24, 26
	ボビンケースやかまに糸がからみついている	送り歯とかまの糸くずを取り除く	48, 52
	上糸の調子が強すぎる	糸調子を調節する	47
	針が曲がっている 針先がつぶれている	正しい針を使用する	17
	針の取り付けかたが間違っている	正しく針を取りつける	19
	糸が古い	新しい糸を使用する	—
下糸が切れる	下糸のセットのしかたが間違っている	下糸をセットし直す	24

現象	原因	処置	ページ
布を送らない	ぬい目の長さ調節ダイヤルが「0」になっている	ぬい目の長さ調節ダイヤルを適切な位置に合わせる	12, 13
	送り歯に糸くずやほこりがたまっている	送り歯とかまの糸くずを取り除く	52
	模様選択ダイヤルが模様番号「2」「4」になっている	正しい模様にセットする	12
縫い目がつぶ	針の取り付けかたが間違っている	正しく針を取りつける	17, 19
	針が曲がっている	まっすぐな針を使用する	17
	布地に対し針と糸が合っていない	布に適した針と糸でぬう	16
	上糸のかけかたが間違っている	上糸を正しくかけ直す	26
布がしわになる	上糸の調子が強すぎる	糸調子を調節する	47
	上糸、下糸のかけかたが間違っている	上糸、下糸をかけ直す	24, 26
	布地にくらべて針が太すぎる	布に適した針を使う	16
	針がつぶれている、曲がっている	正しい針を使う	17
	伸縮性のある布地をぬっている	ボールポイント針を使用する	16
布の表がつっている	下糸のセットが間違っている	下糸をセットし直す	24
	上糸の調子が強すぎる	糸調子を調節する	47
	ボビンがボビンケースに正しく入っていない	ボビンを正しくボビンケースに入れる	24
	専用ボビンを使用していない 金属ボビンを使用している	専用ボビンを使用する	4, 22
布の裏に糸がたくさん出る	上糸、下糸のかけかたが間違っている	上糸、下糸をかけ直す	24, 26
	上糸の調子が弱すぎる	糸調子を調節する	47
	上糸のかけかたが間違っている (糸案内に糸が通っていない)	上糸を正しくかけ直す	26
布の裏側に糸がからむ	天びんから糸がはずれている 上糸調子に糸が入っていない	押えをあげてから もう一度糸をかけ直す	26

送り歯とかまのお手入れ

⚠ 注意



安全のために必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

ケガの原因になります。



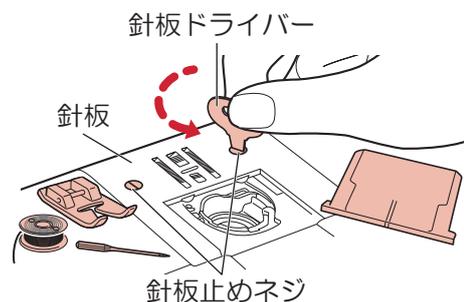
(ボビンケースやかまに糸がからんだ場合、又はボビンケースの位置がずれた場合も、次の手順を参照してください。)

● お手入れ方法

1

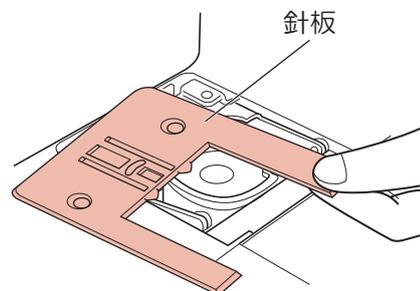
針、押え、すべり板、ボビンをはずす。
付属の針板ドライバーで針板止めネジ
2ヶ所を左に回してとりはずす。

※針のはずしかたは 19 ページへ
押えのはずしかたは 20 ページへ

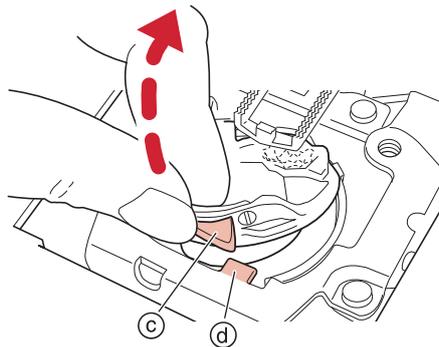


2

針板をとりはずす。



3



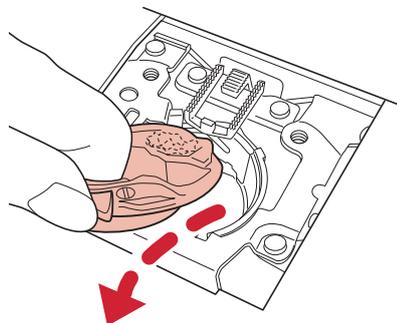
図のように © 部が © 部を乗り越えるまで、ボビンケースを上を持ち上げる。

4

ボビンケースを矢印方向に引き抜き、取り出す。

(お願い)
無理に引き抜かないでください。ボビンケースにキズがつくおそれがあります。

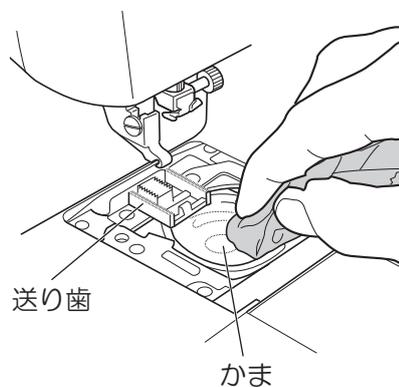
※引き抜けない場合は、手順 **3** からやり直してください。



5

送り歯とかまの糸クズやほこりを取り除き、やわらかい布でふきとる。

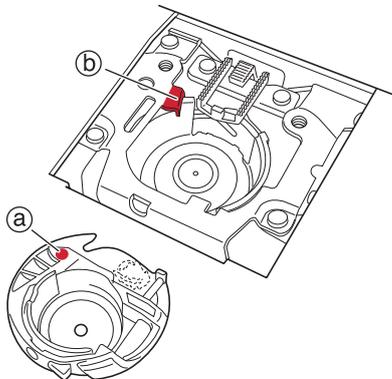
糸クズやほこりを掃除機で吸い取ることができます。



● ボビンケースのとりつけ

1

ボビンケースの赤い点 ① 部がミシン ② 部の下になるよう、ボビンケースの向きを合わせる。



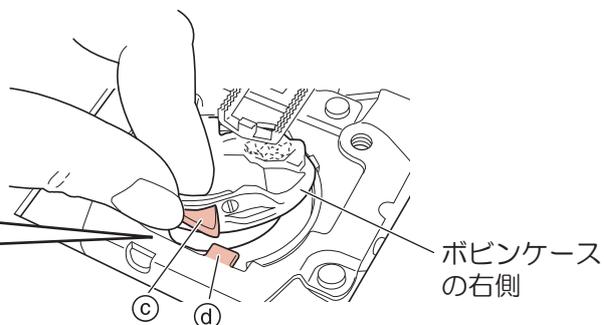
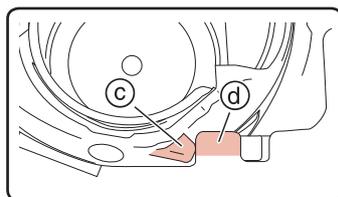
2

図のようにボビンケースを左に傾けながら、ボビンケースの左側を釜の内部に入れ込む。



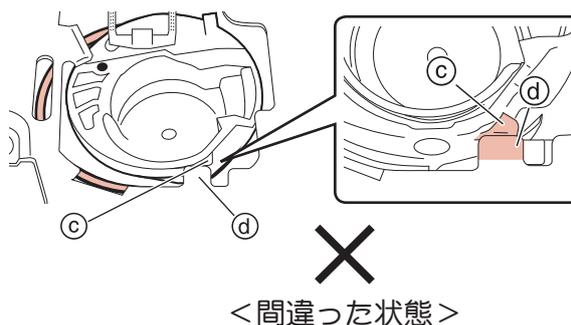
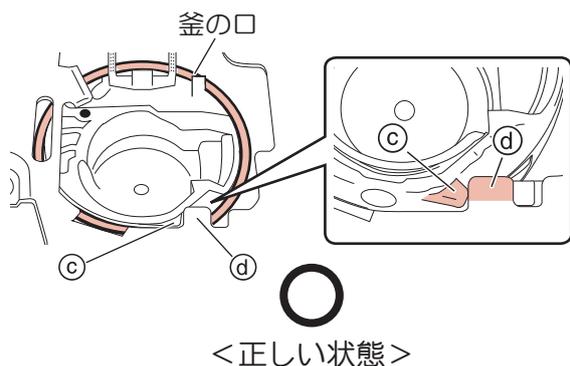
3

ボビンケース ③ 部がミシン ④ 部の左側にくるように、ボビンケースの右側を釜の内部に入れ込む。



4

ボビンケースが釜の内部におさまっていることを確認する。



- ボビンケース全体が釜内部に入り、釜の口全体が見える。
- ボビンケース ③ 部がミシン ④ 部の左側にきている。

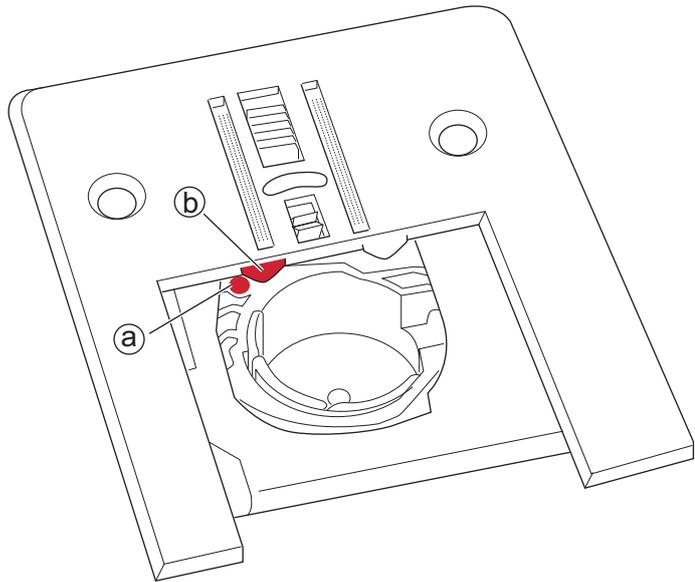
- ボビンケースの右側が、釜の口にかぶっており、ボビンケースが斜めになっている。
- ボビンケース ③ 部がミシン ④ 部の上にきている。

(お願い)

プーリーを2～3回手前に回したとき、ボビンケースが安定しない場合や、上記右図のように間違って取り付けられている場合は、手順 **1** からやり直してください。

5

ボビンケースの赤い点 ① が
針板 ② の左横の位置（右図）
になるように、取りつける。



6

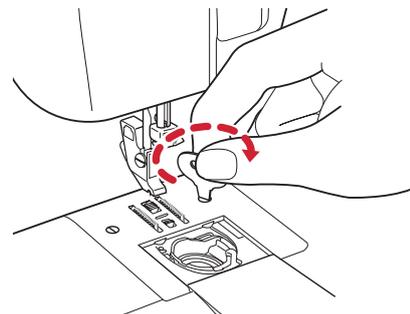
① 針板止めネジ 2 ヶ所を右に回してしめる。

② 押えと針をとりつける。

③ 針が針穴に正しく入るかを確認する。

※ ボビンケースが正しく取り付けられていない
と、プーリーは重くスムーズに回りません。
このようなときは、針板とボビンケースを
はずし、再度取りつける。

※ 針の取り付けかたは 19 ページへ
押えの取り付けかたは 21 ページへ



電球交換のしかた

⚠ 警告



ランプシェードとパネルは接触させない。
火災の原因になります。

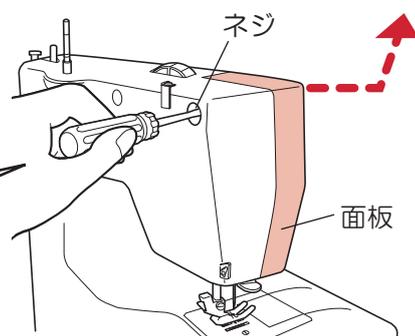
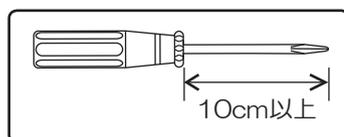


電球を交換するときは、電源スイッチを「切」にし、電源プラグを抜き、ランプシェードと電球の熱がさめてから行う。
やけどや感電の原因になります。

1

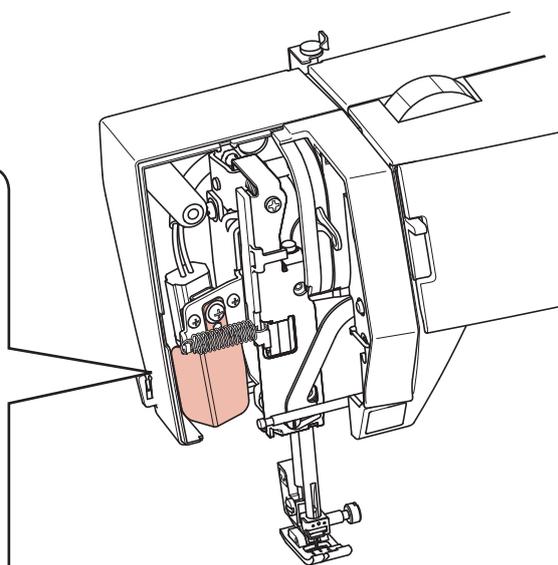
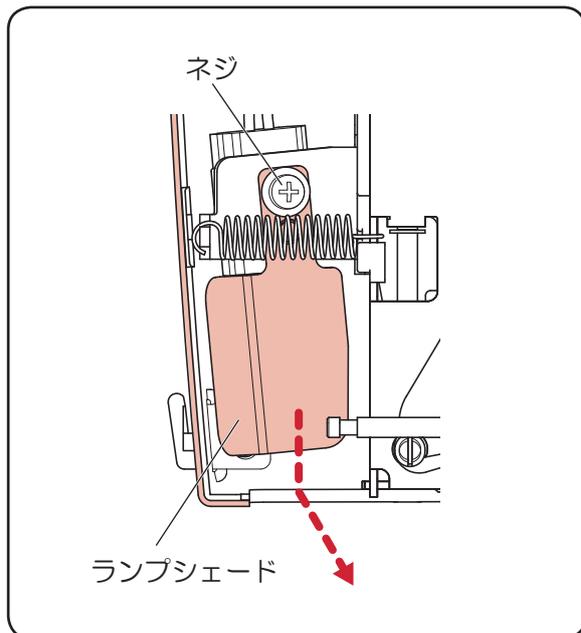
お手持ちのプラスドライバーでネジをゆるめ、矢印の方向に面板をはずす。

※ ドライバーの軸の長さが 10cm 以上のものをご使用ください。



2

お手持ちのプラスドライバーでネジをゆるめ、矢印の方向にランプシェードをはずす。



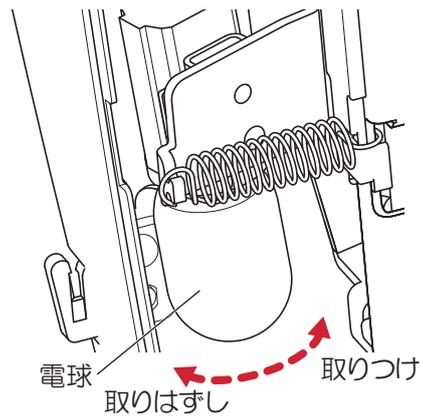
3

電球を左に回して取りはずす。

新しい電球を右に回して取りつける。

注意

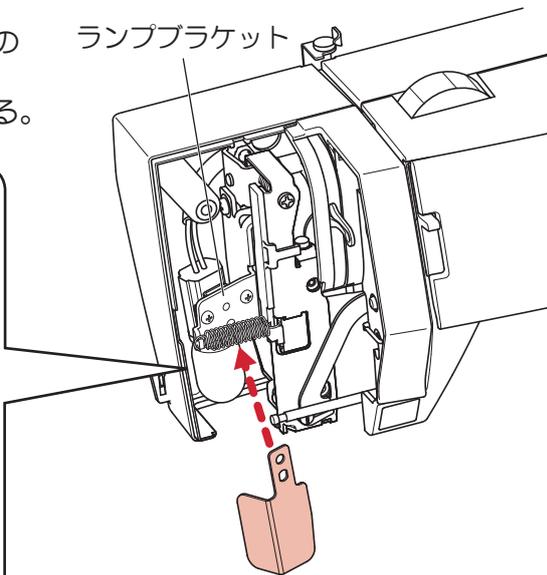
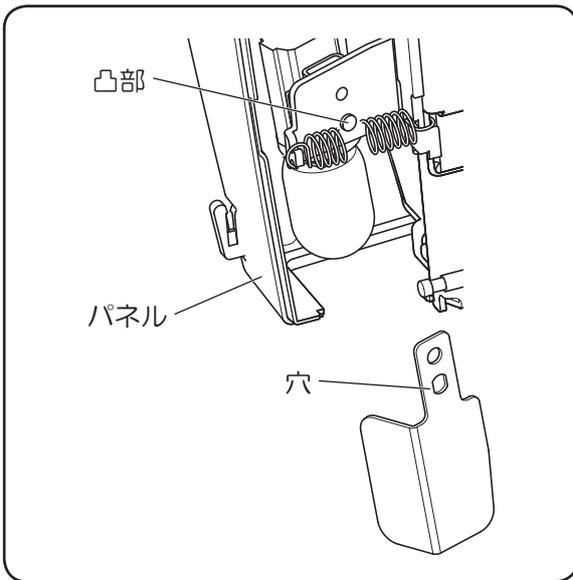
電球は口金サイズ E-12 型最大 15W のものをご使用ください。



4

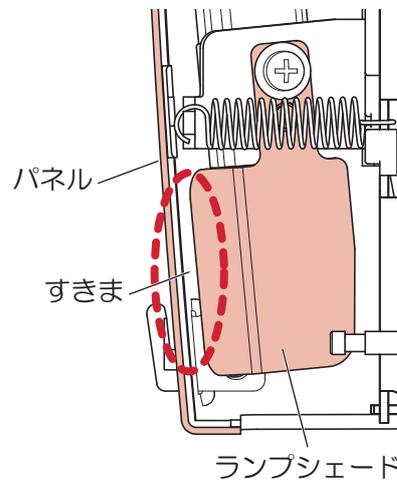
ランプシェードを矢印の方向から入れ、ランプブラケットの凸部とランプシェードの下側の穴をあわせる。はずしたネジでランプシェードを取りつける。

ランプブラケット



注意

ランプシェードとパネルにすきまがあることを確認する。



5

電球の交換、ランプシェードの取り付けが終わりましたら、面板を取りつける。

保管方法とお願い

注意



小さなお子様の手の届く場所に置かない。
針などにふれて、ケガをする原因になります。

保管方法

保管するときは、次のことに注意してください。故障や変色、破損の原因になります。

- 湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
※付属のソフトカバーをかけて保管することをおすすめします。
- 直射日光の当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。
- 不安定な場所に置かないでください。
- 逆さまや横倒しにして置かないでください。
- 油煙や湯気の当たる場所に置かないでください。

(お願い) 業務用としてのご使用はお控えください。
過負荷による故障の原因となります。

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
業務用として使用する場合は保証はいたしかねますのでご了承ください。
- 仕様および外観は、品質改良のため予告なく変更することがありますので
ご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので
ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

⚠ 注意



修理、分解、改造はしない。

感電・火災や異常作動によるケガの原因になります。

1. 万一、お客様の正常なご使用状態でミシンが故障した場合、お買い上げ日より、1年間無料修理させていただきます。無料修理は、故障製品を弊社までお送り頂き、修理完了後、お客様に返送することとします。無料修理をお受けいただく際には、保証書が必要となります。この保証書にご購入日、販売店名の記載がない場合は、納品書または領収書が必要になります。
2. 保証期間後も、有料にてアフターサービスを承っておりますので、ご遠慮なくご相談ください。ただし、長期間にわたって使用された場合、新品同様の性能までに修理出来ないことがありますので、ご了承願います。
3. 当社では、この製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しております。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）
4. 出張修理は、お受けいたしておりませんので、あらかじめご了承ください。
5. 修理・不具合に関するお問い合わせは、お買い上げの販売店及び下記「お客様相談室」で受け付けております。

【お問い合わせ先】

お客様相談室 0120-24-8640（フリーダイヤル）

受付時間：8:30～17:30

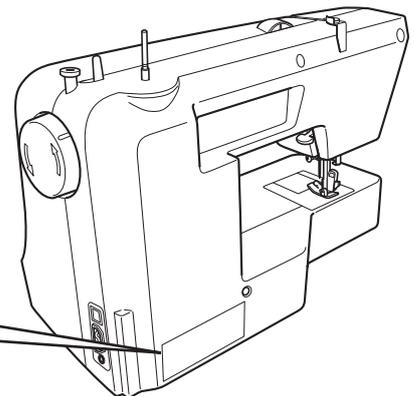
（土日・年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休暇は除く）

【お問い合わせ時のお願い事項】

※お電話での故障診断及び操作確認により、解決する場合がございますので、お手数ですが、お電話口にもシンと取扱説明書をご用意いただき、ご連絡いただきますようお願い致します。

※シン背面に貼付記載されている「型式」「機種名」をご確認の上お問い合わせください。

型式 ○○○○○
機種名 ○○○○○



【付属品及び別売品のご購入】

当社のホームページからご購入いただけます。（<http://www.egatama.jp>）

パソコンをお持ちでない方は、以下弊社窓口へお問い合わせください。

アイシン精機株式会社 お客様相談室 0120-24-8640（フリーダイヤル）

受付時間：8:30～17:30

（土日・年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休暇は除く）

仕様

型式	SP20
かまのタイプ	水平全回転がま
針	家庭用ミシン針 (HA-1)
ボビン	アイシン専用樹脂ボビン
最大送り量	4 mm
最大振幅	5 mm
直線針基準位置	中央基準、左基準
ミシンの重さ (本体)	5.4 kg
ミシンのサイズ	幅 : 410 mm 奥行 : 198 mm 高さ : 294 mm
定格電圧	交流 100V
定格周波数	50 ~ 60 Hz
定格消費電力	60W
電球	15W

ミシンについてのお問い合わせ、ご相談は保証書をご確認ください。

【お問い合わせ先】

お客様相談室 0120-24-8640 (フリーダイヤル)

受付時間 : 8:30 ~ 17:30

(土日・年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休暇は除く)

製造販売元 : **アイシン精機株式会社**

〒448-8650 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地

679111-DDD10-D